

Jahresbericht 31

JAPANISCH-DEUTSCHE GESELLSCHAFT
WESTJAPAN



HÖLDERLINTURM IN TÜBINGEN, BADEN - WÜRTTEMBERG

平成 19 年 6 月



西日本日独協会

FUKUOKA JAPAN 2007

目 次

寄 稿

ドイツにおける物乞いの習慣	Sven Holst	1
Bericht aus Tübingen	Adelheid Iguchi	4
琉球のハレルヤコーラス	斎 藤 裕 三	7

例会と催し

〈4月例会〉 鷗外のドイツ体験 ——『独逸日記』を読む	清 水 孝 純	9
〈6月例会〉『ドイツ研修旅行』報告		11
1. ヨーロッパ統合とドイツの多文化主義 移民問題を中心に	稲 田 光 朗	11
2. ドイツ人の環境とのつき合い方	尾 下 優 子	12
3. ドイツ国際平和村を訪問して学んだこと	田 中 香 織	13
〈7月例会〉 浜辺のビアフェスト	小 林 正 毅	15
〈9月例会〉 西ドイツに派遣された日本人炭鉱マンの体験談	村 谷 泰 一	17
〈10月例会〉 欧州連合とは何か? それは何を意図し、何ができるか?	ヘルムート・グロース	20
〈11月例会〉 安全でおいしい牛肉の生産に挑戦	後 藤 貴 文	28
〈12月例会〉 楽しかった「ドイツ風クリスマス」 — シンジラレナーイ! —	斎 藤 裕 三	31
〈2月例会〉 ドイツ人と祭り	Sven Holst	33
〈3月例会〉 スイスの銀行が世界中から信頼されるのはなぜか	森 弘 志	35

事務局

事務局長の任務を引き継いで	根 本 道 也	38
記録・報告		39
西日本日独協会会則		44
平成19年度役員		46
会員名簿		47
関係機関		56
編集後記		

ドイツにおける物乞いの習慣

福岡女子大学 Sven Holst

ドイツの街には物乞いをする人が多い。日本と比較した場合、それが目立つ。昔に比べて物乞いをする人が多くなったと、ドイツ人も感じている。その中には社会福祉ネットの目から落ちこぼれたホームレスや束縛を嫌う若者、麻薬中毒患者もいる。その他に、東ヨーロッパからドイツの街に送り込まれた物乞い集団もいる。ドイツにも野宿する人はいる（ミュンヘン：200人、夏600人）が、日本のような青いシートの“集落”はない。国によって貧困者も異なっている。

中世では物乞いは、信者の罪を軽くする布施の対象として歓迎された。キリスト教会は布施をすることを強く勧めた。しかし、働くことができる健康な人は物乞いをしてはならなかった。中世末期には経済変化によって貧困が深刻化したり、布施が多くなったりしたので、物乞いが急速に増加した。その中には病気や障害を偽る人も多く含まれた。都市当局はその偽物乞いと他所から来た物乞いを、体罰や入牢で都市から追い払うように努めた。

宗教改革が一つの分岐点であった。新教は信仰を宗教活動の中心に置いた。そのため布施の価値が下がった。30年戦争で荒れ果てたドイツでは、物乞いをする放浪者が多くなり、経済が低迷した。その結果、布施が少なくなったので、このような放浪者集団は市民の恐怖的になり、治安の問題になった。各当局はその問題に厳しい措置で対応することを試みた。市民意識が芽生えた結果、仕事は人間の使命であり、仕事の成功は信仰深い生活への神様の恵みと見なされた。それが M. ウェーバーの俗世におけるプロテスタントの倫理で

あった。その思想に照らして考えると、“仕事をしない”物乞いの生活は人間の使命に反するもので、貧困はその“非人道的な生活”に対する罰となる。その結果、放浪者は強制労働収容所に入れられ、仕事をするように教育された。啓蒙思想により、窮地に追い込まれた親戚のない人々は援助を受ける権利を得た。しかし、責任を有する自治体が広い権限を持つ後見人を決めるのであるが、この後見人によって強制労働収容所に送り込まれた困窮者が、仕事の見通しがいかぎり釈放されないという場合もあった。19世紀半ばから物乞いと放浪はいうに及ばず、物乞いの黙認さえも刑罰の対象となった。1970年代の初めにはその法律は廃止された。もちろん、福祉目的のための募金の扱いは別であった。孤児の保護、孤児の教育、後には、動物の保護も市民社会、特に 婦人たちの重要な役割になった。

民衆の慣習には様々な物乞い慣習があった。二つの例を紹介する。

カーニバルの前の3日間、子供たちは扮装して町の家々を廻り、歌を歌いながら施し（菓子）をねだる。この慣習は広く存在したが、物乞いに対する偏見により、その慣習は戦後大幅に消滅した。親は自分の子供が物乞いをするのを嫌った。地域住民の連帯感がある程度残っているドイツ西南部の田舎には、その慣習はいまだに存在する。小学校の時、私はSchwarzwaldの村の新開発住宅街に住んでいた。カーニバルの最後の二日間には、扮装をし、近所の友達と町内を廻って、家々のチャイムを鳴らした。戸が開かれたら、物乞い歌を歌って菓子をもらった。英米のハロウィーンに似

ているが、“Trick or treat”（いたずらか施しか）のように脅すのではなく、“gizzig, gizzig”（けちだ、けちだ）と叫ぶ。中学校入学の頃、私の家族は隣のより大きな町に引っ越したが、そこにはそのような習慣はなく、年齢的にも私は参加する年齢を越えていた。Schwabenのカーニバルが盛んなある村の研究報告によると、その村では今でも子供が家々を廻っており、ある時町内の道路を走っていた車を止めて、金を求めたといわれている。しかし、大人たちがこの行過ぎた行動をすぐに阻止したそうである。

この習慣はしかし他の形においても残っている。カーニバルの行列の時、観客は物乞い歌を歌って行列の参加者から少々の菓子をもらう。小学生だけではなく、青少年までもがそれをするのである。行列の参加者と観客の一つの交流の形である。一方ライン地域では、カーニバル行列は大掛かりになった。観客との触れ合いは少なくなったが、その代りに山車から、両手一杯の菓子を何トンも投げるようになった。観客はただ“Kamelle”（キャンデー）と叫ぶだけである。勿論、ライン地域の田舎町のカーニバル行列では、観客が山車の上の知り合いの名前を叫んで、自分の方向に投げるように求めることもある。投げられる菓子も時代とともに高級化した。今、安物の菓子が投げられたら、子供でさえも拾わない。行列の後でごみとして回収され、捨てられてしまうだけである。

もう一つの習慣は“Dreikönigssingen”（東方三賢者廻り）である。三賢者、民間伝承では三人の王様、が不思議な星に導かれ、イエスが生まれた牛小屋を訪ねてきて、誕生祝いの品を献上した。新約聖書にはほとんど書かれていない存在であったが、民間伝承で人気を得た三賢者は青・中・老年の代表、当時知られていた三大陸の代表とみられた。名前はCaspar（青年、アフリカ）、Melchior（中年、ヨーロッパ）、Baltasar（アジア、老年）と決められた。旅行者の守り神にもなった。ドイツのバルバロッサ帝の首相であったケルンの大司教が、彼らの遺骨をミラノからケルンに持ち

帰った。多くの巡礼者の口を経て、その名はドイツ中に響き渡った。教会でその話が演じられ、それが徐々に拡大し、教会からはみ出し、華やかな行列にもなった。その中でKasparは道化役になった。今でもドイツの人形劇は、その主役の名によりKasperletheaterと呼ばれている。宗教改革とともにその習慣は次第に途絶えてきたが、地域ごとにはまだ様々な習慣が残った。例えばケーキの中の豆一粒で「一日の王様」（Bohnenkönig）が決められたり、将来を占ったりする。三賢者廻りは特にアルプスの地域に残った。16世紀半ばには、それは教会所属のラテン語学校の生徒の特権であった。規律を見守る教員とともに、彼らは都市を廻って教育費を集めた。それを真似て、マイスターの支配下にあった中間の職人（Gesellen）が無許可で各家の前で歌を歌った。それを免れたい人は金などを払った。30年戦争後の17世紀のドイツやスカンディナヴィア、イングランドでは放浪者（無職の職人や軍人）がこの習慣を利用し、布施を拒否する人を脅した。物乞い行動を弾劾する流れにより、当局はこの習慣を阻止しようと努めた。その結果、この習慣は小規模に南ドイツやアルプスの村々だけに残った。

転機が第二次世界戦争の後に訪れた。1947年に戦後オーストリアでは、社会の再建のためにカトリック若者集団（Jungschar）が設立された（2005年にそれは98%の聖堂区に存在し、130,000人の子供が参加している）。1955年にカトリックの宣教促進組織が、宣教師たちの乗り物調達のため、三賢者廻りの習慣を利用して募金をしてくれないかと、カトリック若者集団に問い合わせた。それは新しい三賢者廻りのスタートであった。1959年には、その運動はドイツに及び、100聖堂区で発展途上国のための募金を目的とした三賢者廻りが始まった。1961年にカトリック信者連合がその運動に賛同し、共催でドイツの90%の聖堂区でこれを開催し、50万人の子供が三賢者として家々を廻り、毎年3,000万DMを発展途上国の子供のために集めた（1990年：15,000万

DM - 2004年：34,300万DM)。これは地域的にも拡大し、プロテスタント教の地域にも広がっているところである。

今、この活動は具体的にどのように行われているであろうか。準備集会と礼拝で、子供たちは対象の発展途上国の状況、歴史、文化を学んでいる。目的は子供たちが他国の子供たちを助けることだけではなく、子供たちの異文化理解をも目指している。集めた金の使い道、援助企画（教育援助、女子教育援助、教員・保護士の教育、職業訓練、障害児の施設、孤児施設、水道補強、食生活改良、親の識字教育）についても学んでいる。三賢者廻りのために王冠を作ったり、歌を練習したり、衣装を決める時間もある。ミサで賢者を演じる子供、チョーク、星が祝福された後、三賢者が派遣される。廻る日には15時ぐらい(学校と宿題の後)に司祭館に集合し、着替え、付き添いの大人と一緒に与えられた地区に移動し、カトリックの家族や訪問を希望するプロテスタントの家を廻る。チャイムを鳴らし、ドアが開けられたら、歌を歌い、詩を誦して、チョークで祝福の文字

20+C+M+B+06を戸の枠に書き、発展途上国のための寄付と三賢者のための菓子を受け取り、最後に歌を歌う。祝福の文字は、当年と「キリストよ、この家を守ってください」という意味であるが、民間では三賢者の名前の頭文字であるとも考えられている。その文字は翌年まで残る。19時ぐらい、皆は司祭館に戻り、母親たちが作った晩御飯と一緒に食べる。三賢者廻りは実際には二・三日かかる。家の住人が留守の場合には、翌日もう一度訪れるか、あるいは、祝福の文字を書き、寄付のための振込用紙をポストに入れておく。最後にこの行事はミサで終わる。宗教的な意義と福祉的な意義を上手に併せた行事である。

民衆習慣は途絶えたり、わずかな地域にしか残らなかったり、形を変えたり、凄まじい復活を成し遂げたりする。後者の例が三賢者廻りであり、今なお拡大し続けている一つの行事である。近代化は民衆行事にとって断絶の危機となるだけではなく、変貌による復活のチャンスともなるのである。

Wer fremde Sprachen nicht kennt, weiss nichts von seiner eigenen.

— Goethe

「外国語を知らないものには自国語はわからない」というゲーテの言葉は、異なる言語や文化を理解しなければ自分の本当の姿は見えないということを意味しています。外国語習得とは相手を知り、自分を知り、自他の違いと隔たりを認識した上で融和の道を探るといふ、真に人間的な営みです。

学長 池田紘一

言語は過去を伝える

言語は人を結ぶ

言語は自由を育む

言語は全ての鍵になる

—長崎から世界へ—

【大学】 外国語学部

国際コミュニケーション学科

英語英米文化コース

ドイツ語ドイツ文化コース

フランス語フランス文化コース

スペイン語スペイン文化コース

中国語中国文化コース

日本語日本文化コース

比較社会文化コース

【短期大学】 英語学科

こども英語コース

キャリア英語コース

W
VIA
VERITAS
VITA

Fremdsprachenuniversität Nagasaki

長崎外国語大学 長崎外国語短期大学

長崎県長崎市横尾3丁目15-1 TEL 095-840-2000



Bericht aus Tübingen

Adelheid Iguchi

Vielleicht erinnern sich einige Leser oder Leserinnen noch an mich. Bis 1996 war ich regelmäßiges Mitglied der Versammlungen der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Westjapan, auch danach war ich manchmal auf den Versammlungen, wenn ich gerade zu Besuch bei meiner Familie in Fukuoka war. Seit 2006 bin ich Auslandsmitglied der Gesellschaft und ich freue mich, auch hier nach Tübingen den Jahresbericht zu bekommen.

Nun möchte ich Ihnen ein wenig über meine Arbeit berichten. Im April 1996 war mein Erziehungsurlaub zu Ende, insgesamt 12 Jahre. Ich musste wieder an meine Arbeitsstelle an der Universitätsbibliothek Tübingen zurückkehren.

Doch nun zuerst einige Informationen über Land und Leute. Tübingen ist eine kleine Universitätsstadt in Baden-Württemberg. Sie hat 85 000 Einwohner und 24 000 Studenten aus ganz Deutschland und vielen Ländern der ganzen Welt. Die Geschichte der Universität ist alt. Sie wurde 1477 von Graf Eberhard gegründet. Berühmtheiten, die dort studiert haben, sind unter anderem Johannes Kepler (Astronom), der Dichter Friedrich Hölderlin und die Philosophen Hegel und Schelling.

In der Urkunden der Universität Tübingen wird schon 1522 eine Büchersammlung erwähnt, der Anfang der heutigen Bibliothek, in der ich arbeite. Die Universitätsbibliothek besteht heute aus 4 Gebäuden, dem unter Denkmalschutz stehenden Bonatzbau, erbaut 1912, dem Hauptgebäude von

1963 und dem Ammerbau von 2002, der seinen Namen von dem kleinen Fluss hat, über den eine Brücke führt, die dieses Gebäude mit dem Hauptgebäude verbindet. Die Alte Waschhalle, seit 2005 ein weiteres Gebäude der Bibliothek, war früher die Waschküche für die Universität und die Kliniken.

Die Universitätsbibliothek besitzt zzt. 3,5 Millionen Medieneinheiten, das sind Handschriften, Inkunabeln, Bücher, Zeitschriften, Audiovisuelle Medien usw. Jeder Einwohner des Landes Baden-Württemberg kann einen Bibliotheksausweis bekommen.

Was ist nun meine Arbeit ? Als Leiterin des Allgemeinen Lesesaals und Zeitschriftenlesesaals trage ich für die Gebäude Ammerbau und Alte Waschhalle die Verantwortung. Ich betreue 18 Mitarbeiterinnen und Mitarbeiter und bin für die Dienstplanung und Arbeitsorganisation verantwortlich.

In den beiden Gebäuden gibt es ca. 400 Arbeitsplätze für Studenten, 35 Einzel- und Gruppenarbeitskabinen, Internet-Pools mit 40 PCs. Die Besucher können dort auch mit ihrem eigenen Laptop (Notebook) mit Kabel oder WLAN ins Internet. Die Bibliothek ist zzt. von Montag bis Freitag von 9.00 bis 22.00 Uhr geöffnet, in diesem Jahr soll die Öffnungszeit bis 24 Uhr erweitert werden. In Ammerbau und Alter Waschhalle stehen insgesamt 700 000 Bände, von denen 650 000 nach Hause ausgeliehen werden können. Wir beraten

und helfen den Studenten und anderen Interessenten bei der Literatursuche für das Studium, die Doktorarbeit und andere Projekte. Die Arbeit ist sehr abwechslungsreich und interessant.

Sollten Sie bei einer Reise durch Deutschland

nach Tübingen kommen, würde ich mich freuen, Sie begrüßen zu dürfen. Ich bin per E-Mail unter den folgenden Adressen zu erreichen.

adelheid.iguchi@ub.uni-tuebingen.de oder
allg-lesesaal@ub.uni-tuebingen.de

テュービンゲンからの報告 アーデルハイト 井口

もしかしたら読者の皆さまの中の何人かは、まだわたしのことを覚えておられるかも知れません。1996年までわたしは西日本日独協会の例会の常連の会員でした。その後も、丁度それが福岡の家族のもとに滞在しているときに当たれば、時々は例会に出席していました。2006年からわたしは日独協会の在外会員にさせていただき、ここテュービンゲンに「年報」を送っていただいております、大変嬉しく思っております。

さてここで、少しばかりわたしの仕事についてお話ししようと思います。1996年の4月、通算して12年に亘るわたしの研修休暇が終わり、わたしはまたテュービンゲン大学図書館の職場に復帰しなければなりませんでした。

しかし先ずは、テュービンゲンの土地と人々について少しばかりお話しします。テュービンゲンはバーデン・ヴュルテムベルク州にある小さな大学都市です。8万5千人の住民と、ドイツ全土および全世界の多くの国々から来ている2万4千人の大学生が住んでいます。大学の歴史は古く、1477年にエーバーハルト伯爵によって創立されました。この大学で学んだ著名人として、特に天文学者のヨハネス・ケプラー、詩人フリードリヒ・ヘルダーリン、哲学者のヘーゲルおよびシェリングの名前を挙げることができます。

テュービンゲン大学の史料には、1522年にすでにある蔵書についての言及があります。これがわたしの働いている今日の図書館の始まりです。この大学図書館は現在四つの建物から成っています。1912年に建てられ、文化財としての保護を受けている「ボーナ

ツ館」（訳注：建築家パウル・ボーナツの名に因む）、1963年に建てられた「本館」、本館と建物を繋ぐ橋がその上に架かっている小さな川から名付けられた、2002年建設の「アマー館」、それに、以前は大学および付属病院のための洗濯用施設であったものが、2005年からは第4の図書館棟となった「旧洗濯棟」がそれです。

本大学図書館が所蔵するメディアの数は現在350万単位で、その内訳は写本、揺籃期本（訳注：ヨーロッパの1500年以前の活版印刷物）、書籍、雑誌、視聴覚メディア等々です。バーデン・ヴュルテムベルク州の住民は誰でも、この図書館の利用証を貰うことができます。

さて、わたしの仕事の内容ですが、一般閲覧室および雑誌閲覧室の室長として、わたしは「アマー館」と「旧洗濯棟」の責任者です。わたしのもとで18名の男女館員が働いています。わたしは彼らの勤務計画と仕事の企画・運営とに責任を負っています。

上記二つの建物には学生のための席が約400席、個室とグループ学習用小部屋およびパソコン40台を備えたインターネットプールなどが35室あります。来館者はこのインターネットプールに自分のラップトップコンピューター（ノートパソコン）を持ち込み、ケーブルまたは無線ランでインターネットに接続することができます。当図書館は現在のところ月曜から金曜まで、朝9時から夜の22時まで開いていますが、今年は開館時間が夜の24時まで延長される予定です。アマー館と旧洗濯棟には総計70万部の本があります

が、その中の65万部は借り出して自宅に持ち帰ることができます。わたしたちは大学生やその他の利用者たちが、研究や博士論文執筆、その他のプロジェクトのための資料探しをするのを助言したり、手伝ったりします。この仕事は非常に多方面に亘り、興味深いものです。

皆さまがドイツ旅行をされてテュービンゲンに来られる折には、わたしに声を掛けてくだされば嬉しく思います。わたしのメールアドレスは次のとおりです。

adelheid.iguchi@ub.uni-tuebingen.de または
allg-lesesaal@ub.uni-tuebingen.de

(翻訳：高田)

緑と光をテーマに、人が心から安らげる空間…をテーマに。
光溢れる開閉式のルーフガーデン・光天井の大小のバンケット
ルーム・掘ごたつの個室と和宴会場・緑美しい日本庭園などを
備え、皆様のお越しをお待ち申し上げます。

ご宿泊 シングル 6,500円～
個室でのお食事 3,500円～



KKRホテル博多

〒810-0022 福岡市中央区薬院4丁目21-1
TEL 092-521-1361 FAX 092-521-4881

〈新しいドイツの文学〉シリーズ

- ⑤ 龍の血を浴びて
Chr・ハイン 藤本 訳 定価1575円
- ⑥ ユーゲント
W・ケッペン 田尻 訳 定価1386円
- ⑦ 発掘
G・デ・ブロイン 保坂 訳 定価1386円
- ⑧ 女のいえに男がひとり
U・ハーン 越智 訳 定価1575円
- ⑨ 僕の旅
S・ナドルニー 明星 訳 定価1680円
- ⑩ 隔離の風景
G・ゴルトシュミット 富重 訳 定価1575円
- ⑪ 空爆下のユーゴスラビアで
P・ハントケ 元吉 訳 定価1575円
- ⑫ 幸せではないが、もういい
P・ハントケ 元吉 訳 定価1575円
- ⑬ こどもの物語
P・ハントケ 阿部 訳 定価1575円
- ⑭ マルレーネの姉
B・シュトラウス 藤井 訳 定価1575円

■ 同 学 社 新 刊 ■

バルトルの冒険

—ネコの物語—

マルレーン・ハウスホーファー 著 諏訪 功 訳

探検、放浪、決闘、誘拐、脱走、報復、そして淡い恋、——
バルトルと名づけられたオスのトラネコの冒険譚。夫婦と小学生
の息子二人の四人家族の家にもらわれ、大人のネコに成長するま
でに経験するさまざまな事件を通して、ネコと人間社会の織りな
すドラマが暖かい愛情で描かれる。著者は50歳の若さで亡くな
ったオーストリアの女流作家。四六判・並製・272頁 定価1575円

壁

マルレーン・ハウスホーファー 著
諏訪 功／森 正史 訳

ある朝、山荘で目覚めた「私」は、透明な「壁」
のなかに閉じ込められたことに気がつく…
絶望的な孤独のなかで生きぬこうとする女性
の肉声。四六判・上製・320頁 定価2940円

同 学 社

〒112-0005 東京都文京区水道1-10-7 <http://www.dogakusha.co.jp/>
TEL 03(3816)7011 FAX 03(3816)7044 (定価税込)

琉球のハレルヤコーラス

日本旅行作家協会会員 斎藤 裕 三

「ヘンデルの曲？学生の頃《メサイア》を歌った。ほかに《水上の音楽》《王宮の花火の音楽》《ユダス・マカベウス》の〈勇者は帰る〉を知ってる」

付け加えるなら、《Largo》で有名な歌劇《セルセ》の〈Ombra mai fu（樹木の陰で）〉と、数年前映画「カストラート」の主題歌となった、歌劇《リナルド》の中のアリア〈Lascia ch' io pianga〉（苛酷な運命に涙を流し）の2つか。国王が〈ハレルヤ〉に感激し聴衆と一緒に起立したことも。

英国の「エンシェント室内管弦楽団」の指揮者で『ヘンデル』の著者クリストファー・ホグウッドも、「日本語版への序文」にこう記している。

北九州公演の慰労会の席で一女性が質問した。「彼はオラトリオ以外にも曲を作ったのですか」

ホグウッドは、「多くの人々にとって、ヘンデルは相変わらず一作だけの作曲家なのだ」と嘆く。

ヘンデルが作曲したオペラは42曲、オラトリオも31曲、その他多数の声楽曲、器楽曲を作った。HWV（ヘンデル作品番号）も600を超える。

往年の大指揮者トマス・ビーチャム卿も、「音楽構成の素晴らしさ、気品と優しさに満ちた旋律、優れた作曲技法と無限の多様性に富む」と、ヘンデルを絶賛する。まさに知られざる巨匠である。

さて、数年前、NHKテレビで「ちゅらさん」（題名）という天真爛漫の沖縄の女の子えりが大活躍する番組が放映され、とても好評だった。

劇の中で、えりが東京で間借りした「一風荘」の女主人が、好意を寄せる元医者の間借り人と別れるシーンがあった。この悲しい場面に、なんと前記《リナルド》のアリアが使われた。

再会の時もこの曲だった。騎士リナルドの恋人

アルミレーナが、彼の留守中悪魔に拐かされ、幽閉された身の上を嘆く悲しいアリアである。

気品があり、とても美しい旋律で、ニューヨークの多発テロ事件で、犠牲者を悼むテレビのシーンでも使われた。また、その直後、私が訪れたヘンデルの生まれ故郷ハレの記念館「ヘンデルハウス」でも、このアリアが静かに流れていた。

「ちゅらさん」の最終回、「カチャーシー」（沖縄の賑やかな踊り）の場面でも、このアリアが使われた。陽気なカチャーシーと悲しみのアリア。本来相反する感性と感性の不思議な出会い。目頭が熱くなった。音楽担当者の感性に脱帽！

ヘンデルと沖縄はとても相性がいい。手元に「沖縄の歌・決定版」というCDがある。1曲目がアルゼンチンでも流行った宮沢和史作曲の《島唄》。鷹揚さがヘンデルのメロディーを思わせる。



ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル（ドイツ名・1685～1759）は、ドイツのハレ（塩の意）に生まれた。幼少の頃から並はずれた音楽の天分を持つヘンデルは、父が仕えるハレの広場に立つヘンデル アドルフ一世の薦めで、ハレの聖母教会のオルガニスト、ツァハウに入門する。しかし、時代の流れに敏感なヘンデルは、宮廷や教会の音楽家では飽きたりず、オペラに憧れ1703年ハンブルクに出て、2年後には初のオペラ《アルミーナ》を作曲する。

しかし、ハンブルクで知り合ったメディチ家のフェルディナンドの薦めで、1706年にはイタリア

に向かう。イタリアでは、フィレンツェ、ヴェネツィア、ナポリ、ローマなどに滞在し、オットボーン枢機卿などの後援者や、スカララッティ父子、コレリなど当代イタリアの大音楽家と交流。

だがヘンデルは、1710年、ハノーファーに帰り宮廷楽長となる。選帝侯が後の英国のジョージ一世、その子がジョージ二世である。しかし、翌年には私暇を取りロンドンに渡る。その後数回の旅行を除き、1714年からロンドンに住みついた。

ヘンデルは、英国王室と緊密な関係を保ち、《メサイア》など幾多の名曲を作った。そして、結局ジョージ・フリデリック・ヘンデルとして1727年42歳で英国に帰化し、最後は希望どおりウェストミンスター寺院の墓地に葬られた。

英国人になったヘンデルだが、音楽は生涯イタリアに執着した。彼の作曲技法の基本はイタリア音楽・オペラだった。イタリア語のオペラから英語のオラトリオに移ったが、それは試行錯誤の結果だった。ヘンデルは、イタリアで見た「明るい太陽と青い海」を忘れることはなかった。ヘンデルと沖縄は相性がいい。キーワードはきっと「明るい太陽と青い海」、そして暖かい人情だろう。

1994年に、「ラジオ沖縄開局40周年記念」として「沖縄の歌100」が選ばれた。上位3曲は、①安里屋ゆんた、②汗水節、③えんどうの花。作曲者は3曲とも宮良長包（みやらちょうほう）。

宮良長包（1883～1939）は沖縄・石垣島に生まれた。本島の「沖縄県師範学校」を1907年に卒業、生涯を教育者（音楽）として送った。長包が在職した時代は、沖縄の皇民化教育のため方言や民謡が蔑まれ、学校で生徒が方言を使うと罰を受けた。

長包は、本土の方針に従いながらも、故郷の文化の基層にある民謡を大切にした。彼が作った声楽曲、器楽曲約110が戦火を潜り残った。

その1つが、《琉球木遣歌》（1930年）。作詞者は国文学者の新屋敷幸繁だが、これには北部の国頭村の民謡《くんじゃんさばくい》（国頭捌理）という元唄があった。「さばくい」は「監督」の意。

首里王城正殿は、昔40年～70年ごとに改築され、

その用材を北部の山原（ヤンバル）から男衆が首里までリレー式に引いてきた。その際、声を揃えて歌ったのがこの唄で、その中に「ハイユエー ハーラーラー」というお囃子があり「ハイユエ節」とも呼ばれた。幸繁は、このお囃子を残した。お囃子が「ハーレールーヤー」と聞こえる。

長包作の新曲（合唱曲）全体が「ハレルヤコーラス」のパロディーと言えるくらいそっくり。

そのことは、長包が私淑した山田耕筰も指摘している。そこでこの曲は「琉球のハレルヤコーラス」と呼ばれた。ヘンデルやバッハも、「模倣」「借用」「再使用」などごくふつうのことだった。



宮良長包

それはともかく、長包はヘンデルの《メサイア》を知っていて、「神を称えよ」（ハレルヤ）という喜びの叫びを、めでたい木遣歌のお囃子として、象嵌のようにはめ込んだ。

多摩市に住むソプラノ歌手宮良多鶴子さんの専門はイタリアオペラ。音楽家になった動機は、首里高校の音楽の授業で、イタリアの名テノール、マリオ・デル・モナコを聴き、「全身の血流が逆流するほど」強い印象を受けたからだという。

でも島唄も大好き。多鶴子さんは宮良長包、そして、沖縄音楽の普及にも貢献している。師事するルチアーノ・ベルタニョリオ氏（イタリア人）も、多鶴子さんに沖縄の歌を歌うことを薦める。

台湾で生まれ台北帝大を出た池宮英才氏（1924～2003）は、戦後熊本で九州学院の仕事をした。

英才氏は天賦の美声の持ち主で、音楽への志絶ちがたく、その後上京して日本大学芸術学部で指揮法を学ぶとともに、日本のパイプオルガン演奏の先達木岡英三郎氏に師事した。英才氏は、後に東京女子大学教授、短期大学学部長に昇進した。

1954年、池宮氏を合唱長として「東京女子大学クワイヤ」が誕生、同氏が亡くなるまで50年間《メサイア》の公演を続け、東京の年末の名物行事となった。同氏は日本楽譜出版社刊の《メサイア》に解説を書いた。故池宮英才氏も、長包同様ヘンデルが大好きな沖縄人の血が流れる天才だった。

鷗外のドイツ体験 ——『独逸日記』を読む

九州大学名誉教授 清 水 孝 純

鷗外は明治17年8月24日横浜を出航し、明治21年9月8日横浜に帰港している。ドイツ留学のためである。ドイツ滞在は17年10月10日から21年7月5日までおよそ3年9ヶ月にわたる。この23歳から27歳という澁刺たる青春の気力に満ちたドイツ留学は実に充実したものであった。この体験の鷗外の生涯に持つ意義の重大にして決定的なことは言うをまたない。いかに鷗外がかなりなこの歳月を、文明開化の日なお浅い日本人として送ったか、無限の興味をそそられるところだ。幸いこのドイツ留学については綿密な日記を我々は有している。『航西日記』『独逸日記』『隊務日記』『還東日乗』であるが、このうち『独逸日記』だけが所謂雅文であり、その他は漢文である。『航西日記』は往路の、『還東日乗』は帰路の航海日誌であり、『隊務日記』は滞在末期ドイツの軍隊つきの軍医として勤務した記録である。なぜこれらが漢文で書かれたかは極めて興味ある問題であろう。この中核部分の『独逸日記』にドイツ滞在の様子を伺うことが出来る。これはじつに面白い。森於菟は「長編の叙事詩」と評しているが、瞩目する事物を、冷静かつ的確に簡潔な漢語によって叙述する。鷗外の関心たるや実に広く、ドイツ社会のあらゆる面にわたるといっていいかと思う。これだけの記録を、大学の研究室に通いながら、しかも独文によって論文を書きながら、記述し続けることが出来たということは驚きである。鷗外は様々な人間と付き合う。ドイツの衛生学の大家に教を請う一方で、ドイツの軍医仲間と付き合う。また日本から来た青木公使や大山陸軍卿や乃木希典、川上操六また石黒忠恵などをはじめとして、様々な留

学生と交流する。それぞれの都会の兵営、衛生施設、病院、工場、監獄を見学する。サクソン軍団の演習に参加する。サクソン王の王宮に招かれる。舞踏会に仮面をつけて出る。プライベートの生活では、昼食をとりに通う下宿に集まる人たちと交際する。そこで知り合った人々に招かれる。多くの女性たちが鷗外に関心を示し、どうやら鷗外もまた強い関心を示している。劇場を訪れ、また展覧会を訪れる。会で演説をする。もっとも有名なのはナウマンに対する反論である。地学協会でナウマンが日本について語ったのに対して、憤激や



るかたなく鷗外は、テーブル・スピーチの機会をとらえて早速ドイツ語で反発した。さらにアルゲマイネ・ツァイトUNG紙に駁ナウマン論を寄稿する。このように鷗外の行動は実に多岐に亘るのだが、鷗外はそうした外の世界との付き合いに埋没しているだけではない。この時期じつに多くの文学にも親しんでいる。かれは滞在一年にして「飯島の去りてより、余は其旧室に遷れり。架上の洋書は己に百七十余巻の多きに至る。鎖校以来、暫

時閑暇なり。手に随いて繙閲す。其適言うべからず。・・・ダンテ Danteの神曲Comediaは幽默にして恍惚、ギョオテGoetheの全集は宏壮にして偉大なり。誰か来りて余が樂を分つ者ぞ」(18・8・13)と記している。哲学書にも親しんだらしい。シヴェーグラの哲学史、ポレリュウスの哲学書を愛読した。ベルリン滞在の終わり頃にはクラウゼヴィッツの『戦争論』を早川大尉に週二回講じ始めている。鷗外の観察眼は単に鋭いというだけのものではない。そこには衛生学者としての目が光っているといえる。衛生学は学理に精通するという基本的条件の上に政策的な広い展望と、実際の現実的判断力を必要とする。このことは鷗外の視力をしてドイツ社会をより深いレベルで捉えせしめたと思う。開化のモデルとしてあるはずの西欧社会も、必ずしも規範として完全なものではない。学問の面でも鷗外は、非合理は非合理として批判する。脚気を細菌によるとする学者の説を退ける。学生間に今なお決闘という野蛮が行われているのに立ち会う。汽車の中で悪臭に悩まされ、その原因を指摘するが、改善しようとはしない。酒場にたむろする売笑の夥しい女群をみては、その表情の悲惨なるを知る。同時にその一人がツルゲーネフを読んでいるのを面白いと思う。観光の湖畔にドイツの若者の傍若無人なるを見る。時に冷静客観的な叙述のなかにも鷗外の人間的な心情がのぞくのも慕わしい。演習の帰り、突然の雷雨に襲われたときのこと、悲鳴が聞こえる。幼い子供が難渋していたのだった。鷗外はその子を家まで送っ

てやる。あるいはトーマスというアメリカ人が結核を不治の病として悩み、愛する人と結ばれることの困難を嘆くのを、コッホの結核菌発見という科学的説明で慰める。

『航西日記』『独逸日記』『隊務日記』『還東日乗』をとおして鷗外の記述は大変几帳面なのだが、体験の中核部に当たる『独逸日記』は、必ずしもそこに記述の上での濃淡がないわけではない。特に滞在の後半のベルリン時代においては、前半の記述のすべてに澆刺たる好奇の念と感動に彩られた豊かな叙述が満ちているのに対して、叙述は乾いたものになっている。それはある意味では異文化体験が次第に自己のうちに取り込まれて、日常化してゆくことによる必然的な現象なのだろうが、ベルリンにおいて大和会といった日本人との付き合いが増え、公的束縛が身に逼ってきたのを感じていたためかもしれない。鷗外は自分の留学の目的については「衛生学」と「陸軍医事」の二つを学ぶことと記している。この「陸軍医事」が、ベルリン滞在の末期に鷗外を軍隊医としての勤務に引き込むことになったのだ。『航西日記』に比して、『還東日乗』の鷗外は鬱屈した心情を示しているというのもそのためであろうか。実は鷗外はこのとき秘かな、重大な秘密を抱いていた。所謂エリス問題である。エリスが日本に来ることは、鷗外は知っていた。いわば鷗外は人生の岐路に立っていたはずだ。ところで『独逸日記』にはエリスの名は見えない。もっとも重大なものが秘められているというのも、日記というものの宿命でもあろうか。

『ドイツ研修旅行』報告

1. ヨーロッパ統合とドイツの多文化主義 移民問題を中心に

九州大学経済学部4年生 稲田 光 朗

ドイツ、私がかねてからこの国に興味を持っていたのは、専門的にEUの中心国としてのドイツの経済を勉強していたことだけでなく、経済学でも環境の問題にしても思想的な斬新さ、新しさがドイツから生まれている、この新しいものを生み出す源は何なのだろうかという疑問からだった。そしてその疑問に対する答えをドイツで考えてみたいというのが、今回ドイツ研修旅行に参加させていただいた大きな理由だった。

そうした疑問を根本に持ちつつ、今回私がドイツで調べたのは以下の2つ、すなわち、ドイツの多文化主義(特に教育を中心に)と、その多文化主義の亀裂としての移民問題である。

まずドイツの多文化主義について調べたところを考えていきたい。まずヨーロッパ統合というものをこの研修の中では多くの場面を通じて身近に感じた。たとえばミュンヘンのユースホステルに滞在している時、何度か若者達と話す機会を得たが、ある若者達は車に相乗りして、これからロシアまで行くと述べていた。これには大変驚いた。

そうした状況でドイツは、ヨーロッパとともに生きるという多文化主義政策を推進してきた。特に実際の教育現場では「ヨーロッパ教育」として以下の3点を中心に進められた。先ずヨーロッパ市民としてのアイデンティティを形成し、そしてヨーロッパ社会への参加の意思を育み、最後にEUとその加盟国に対する理解を深めることだった。そうした方針の下で、私が具体的に興味を持ったのは「ヨーロッパ規模の視点からの教育」だ。たと

えば授業において環境問題というものを切り口に、砂漠化、熱帯雨林の伐採といった途上国の環境問題がヨーロッパとの関わりで生じてきているということを学習し、環境問題におけるヨーロッパの責任の大きさを認識させていた。実は私は今、EUの経験を鏡にアジアの経済統合というものを勉強している。これは現在地域規模で黄砂や酸性雨、海洋汚染の問題をはらんでいる東アジアでは、非常に重要なことだと考える。こうしたドイツの教育から学ぶものは多いと感じた。



左から尾下、田中、稲田の各氏

次に移民問題について述べたい。現在のドイツの直面する経済問題は少子高齢化の進展、高い失業率、移民の受け入れをどうするかというように、まさに日本の映し鏡となっている。政府は現在高い失業率がある中で、さらに移民を受け入れる政策をとっており、更なる失業の増加や職を求めるドイツ人の他国への移住、職のない若者世代の極

右の運動への傾倒という問題を生じている。こうした問題がある中で、どういうふうに移民の問題を捉えればよいのか。私が研修期間中ホームステイをしたアメラング村の村長フォイトさんは、以下のように述べられた。「移民達とドイツ人がただ隣り合っているだけ、あるいはそれぞれ別個にまともまっているというだけではだめで、お互いの利点を共有し、共通の利益を達成するために協力していくというような形へ持っていくことが賢い方

法なのではないか。」これは少子高齢化時代を迎えている日本人にとっても有益な言葉ではなからうか。

私は今回のドイツ研修旅行を通じてやっとドイツとつながったという気持ちがある。そして実は最初に述べた、なぜドイツは「新しいもの」を生み出してきたのかという疑問に対する答えをまだ得ていない。このつながりを大事にし、これからじっくりとその疑問に取り組んでみたい。

2. ドイツ人の環境とのつき合い方

九州大学21世紀プログラム学生 尾 下 優 子

私は21世紀プログラムという学部で、“環境保護”を主題として、様々な学問を学んでいる。ドイツは現在、環境大国と呼ばれるまで環境保護の面で成長した。日本とドイツは歴史的にも人格的にも共通点が多いにもかかわらず、日本での環境政策は上手くいっていないのが現状である。その違いの理由を肌で感じてみたかった。

私はそのために二つの都市を訪れた。一つは日本人観光客に人気の Heidelberg、もう一つは環境都市として名高い Freiburg である。

Freiburg では期待通りの先進的なエコロジーを見ることができた。車の契約レンタル施設や、Recyclinghof という、市民が自主的にゴミを持ち込んで分別する施設、エコ型ホテルなど、多くの環境配慮型施設が点在する。

特に Vauban という地区には多くのエコハウスが立ち並び、80%のCO₂削減に成功しているという集合住宅もあった。Vauban は大戦後の焼野が原に、市民の手で築かれたエコ型都市である。この街では、人間環境への取り組みも積極的である。ベランダや庭の間には壁や仕切りがなく、子供達が遊ぶ公園は大人の目と声が届く場所にある。建物はとてもカラフルで、すぐ横に自然の小川や森もある。休日には公園の大きな竈でパンを焼いて、近所の人と団欒するそうだ。街の皆がほぼ顔見知

りで、家族のように助け合って暮らしていた。単にシステムを導入するだけでなく、人々の生活や心の面からの変革も同時に図るところがドイツ流である。自然を慈しめる心を育てるのもエコロジーの重要な要素である。

Heidelberg はエコ対策への期待より、Freiburg との比較に思っていた。しかし私はここで大事なことを学んだ。Heidelberg は新しい街と古い街が分けられていて、古い街並みが綺麗に残っている。これはMünchenや他の街でも感じたことだが、ドイツは本当に多くの古い建物が公共施設や店舗、住居として今でも使われている。ドイツ人にとってみると、まだ使えるのだから、それは当たり前らしい。あるドイツ人は、古い建物は近代的なシステムは持っていない代わりに、それに匹敵する人間の知恵が詰まっている、と語ってくれた。

私は、新しい技術での環境保護にばかり気を取られていたが、古いものとその歴史を大切に受け継ぎ、残すのも、エコの根本的概念である。私はそれを改めて肌で感じた。

ドイツ人はとても暖かで、自然で、他人に対して寛容だ。その心の余裕を生み出しているのは、彼らの文化とそれを大切にする心ではないかと思う。彼らに文化や国のことについて聞くと、彼らは本当に熱心に話してくれる。彼らは自分たちの

文化に誇りを持っている。

私は日本も素晴らしい文化、技術を持っていると思う。日本には思い切った政策の変換と、多方向的な政策はもちろん、それを支える意識の変革も必要だと思う。そのためには自国の文化の見直

し、自然やものを慈しめる心のゆとりの育成も必要ではないだろうか。そして日本が独自の道を見つけ、ドイツに負けない環境大国になるために、私は尽力していきたいと思う。

3. ドイツ国際平和村を訪問して学んだこと

九州大学法学部2年 田 中 香 織

私は3月のドイツ研修旅行で、ドイツ北西のオーバーハウゼンという街にあるドイツ国際平和村という組織を訪れた。これは1967年に、オーバーハウゼン市民の手によって作られたNPO、NGOである。ドイツ国際平和村では、紛争などで傷つき、母国で治療することが困難な病氣やケガを負った子どもたちを連れてきて、ヨーロッパの進んだ医療を提供している。子どもたちを母国の家族から離して治療をすることになるので、ヨーロッパへ連れて来るには、厳しい基準が設けられている。その基準とは、母国では十分な治療が受けられないこと、親が生きていること、そしてドイツに連れて行っても生きられそうなことだ。平和村の施設の収容人数は限られているので、スタッフは子どもたちを選ばなければならない。連れてこられた子ども達は、多くのヨーロッパの病院で、無償で治療をうけることができる。手術が終わると、子どもたちはドイツ国際平和村の施設へとやってくる。この施設で他の子どもたちと共同生活をし、リハビリを繰り返しながら帰国の日を待つのだ。帰国までの間子どもたちは、年齢や国籍の違う様々な仲間と一緒に遊んだり、スポーツをしたりして過ごし、全ての治療を終え、母国の家族の元へ戻るまでに、短い子どもで半年、長い子どもでは2・3年かかる。子どもたちはその日を待ちながら、ドイツでの日々を送るのである。しかし、もし手術により体の傷が治っても、心にはとても深い傷を負ったままである。平和村は職員とボランティアで成り立っていて、全ては寄付金に頼っている

ため、子どもの心のケアまで行う事は難しい。また、家族との再会を心待ちにして帰国しても、紛争により家族が亡くなってしまっていることもあるし、母国の未熟な医療では、ドイツと同じような治療を継続して行う事が困難なため、また平和村に戻ってくる子どもたちもいる。

実際に国際平和村を訪問してみると、そこは子ども達が元気いっぱい走りまわり、笑顔で私に話し掛けてくれる明るい雰囲気のところだった。しかし、子ども達のほとんどは義足や松葉杖を使用しており、体中を火傷している子どももいた。平和な日本で生きている私には、普段感じる事の出来ない現実の戦争が、そこには確かに存在していたのだ。私は今までどこかの国で戦争が起こっていると知っても、なんとなく実感できないでいたし、やはり他人事のように考えていたと思う。事実を現実として受け止められたことは本当によかったし、貴重な体験だった。

また国際平和村にはたくさんのボランティアスタッフがいたが、半分以上が日本人だったのにも驚いた。その他にもたくさんのスタッフがいたが、地元の方々が子どもに勉強を教えたり、建物の修理を行ったり、おやつを作って差し入れしたりと、みんなそれぞれが自分にできることを自分に無理のない範囲で行っているのが印象的だった。日本人はボランティアという意気込んでしまいがちだが、ドイツ人のような自然に助け合う姿勢は見習う必要があると思う。

国際平和村への訪問を通して、平和な日本で暮

らしている私は、ニュースで放送される戦争しか知らなかったが、今この時にも世界中で紛争は起こっていて、苦しんでいる人がたくさんいるという現実を目の当たりにした。ただ偶然、平和な日本に生まれた私は毎日おいしいご飯を食べ、家族みんなで健康に暮らしているのに、偶然、紛争が起こっている国に生まれた子どもたちは、傷つき、苦しんでいる。この違いは、ただの運命だといってはつたらかしにされていいものではない。生まれた場所によって初めからこんなに違いがある世界は間違っているのだ。平和で豊かな国に生まれた私は、そうでない国に生まれた人々に何かできることがあるのではないだろうか。しかし、何を

していいのか私にはよく分からない。平和村の活動も一時的なものであり、世界中の紛争で傷ついた全ての子どもたちを救う事は不可能だし、また母国に戻った子どもが紛争や病気で死んでしまうかもしれない。しかし、戦争が起きているという事を忘れないで、子どもたちに平和な暮らしを体験させていく事はとても意味があることだと思う。戦争を終わらせ、平和な世界を作り出していくのは子どもたちだからだ。戦争をなくし、平和な世界を作り上げていくために、私は日本人として何ができるのか、何をしたらいいのかということ、これからもっと勉強し考えていきたい。

いいものだけを世界から

メルセデスの新しいかたち。Bクラス登場。

メルセデス・ベンツ B 200

車両本体価格 3,500,000円（消費税抜き車両本体価格3,333,334円）

●乗車定員5名 右ハンドル 無段変速トランスミッション SOHC直列4気筒2,034cc

ヤナセ福岡支店 ……TEL(092)525-0318
ヤナセ板付支店 ……TEL(092)593-2924
ヤナセ西福岡支店 ……TEL(092)843-3315
ヤナセ小倉支店 ……TEL(093)471-7931
ヤナセ八幡支店 ……TEL(093)602-8741

ヤナセ久留米支店 ……TEL(0942)44-5261
ヤナセ佐賀支店 ……TEL(0952)33-6006
ヤナセ長崎支店 ……TEL(095)881-3155
ヤナセ佐世保支店 ……TEL(0956)32-6250
ヤナセ鹿児島支店 ……TEL(099)252-0001

●表示の車両本体価格はオプション価格、付属品、保険料、税金(消費税を除く)、登録料に伴う費用は含まれておりません。

●為替変動のため、価格は予告なく変更される場合がございます。●リサイクル料金は車両本体価格に含まれておりません。別途必要となります。

good new days

ヤナセ

株式会社ヤナセ

福岡営業本部

〒810-0014福岡市中央区平尾3-3-1

TEL.(092)521-1221(代表)

浜辺のビアフェスト

小林 正 毅

今年の梅雨は、昨年に続き長い豪雨の連続で、各地に河川の氾濫と土石流の被害をもたらしました。梅雨の終わりを告げるはずの追い山笠の10日後、7月25日にいきなり明けました。昨年より9日遅く明け、雨量は平年より6割も多かったそうです。ビアフェストの29日には、太陽を待ち望んでいた若者と夏休み中の子供達で、百道浜は大賑わいでした。付近の道路は大渋滞となり、通りかかったマイカーも渋滞に巻き込まれ、ビアフェスト会場への到着は一時間もの遅刻となりました。

どうなることかと心配しつつたどり着いたところ、事務局の村上さんと学生さんが、西日の中、汗を流しつつ受付を維持しておられました。そして、お二人の親切な案内を頂き、感謝感謝です。しかし、会場は一巡の雰囲気、出遅れの感否めず、どう溶け込むか連れ合いと心細くなりましたが、前事務局の荒木さんにガイドして頂き、ビールと焼肉を手に、無事空席に納まることができました。本当に心優しい人たちの日独協会です。

ビアフェスト参加は2回目です。前回は、三瀬のイブスキでの「森のビアフェスト」でした。本場仕込みのソーセージに舌鼓を打ち、打ち解けた雰囲気、酔い、来年も参加しようと思いつつ、その後なかなか機会がありませんでした。今回は「浜辺の芝庭でドイツの歌に包まれて、ビール片手にバーベキュー」に魅かれ、参加しました。

千鳥屋さんの別荘は、景観絶佳の立地で、浜辺に接した芝庭から望む背振山地のスカイラインは青空にくっきりとした線を描き、時間と共に変化する暮色の中で、西の空には新月が傾き、ビアフェストの雰囲気としては、なかなかのものでした。

根本事務局長のテキパキとした運営で、フェストは淀みなく進行し、その中で学生が軽やかにサーブする様子は気持ち良いものでした。協会の日常活動においても、若者がもっと活躍できる場があれば、協会の活性化にもつながると感じました。

池田会長も大変なご活躍でした。声楽家の山崎さんと会場を回られ、乾杯の歌 (Ein Prosit!) の楽しい歌唱指導で参加者全員を一つにまとめられました。歌が苦手な私も一寸だけ口ずさみました。



海を背景に大活躍の池田会長

Ein Prosit, ein Prosit, der Gemütlichkeit.

「乾杯、乾杯、この愉快的気分」

ドイツ人とビールで親交を深める時に唱和すると、効果的だそうで、後半の「ゲミュートリヒカイト」がポイントです。機会があったら、試してみます。

高田先生は今回も、会場から参加のご婦人と民族衣装姿で留学生のための活動募金を集められました。私も連合いと少々協力させていただきました。

最後に、各方面から提供された品々の抽選会がありました。籤が引かれる度に、歓声があがり、ピールの量も進みました。連れ合いが籤に当たりましたが、私は次回に期待します。

嬉しい出会いがありました。連れ合いは栃木県の出身で、博多では少々寂しい思いをしています。が、帰りに最寄りの駅までお送りした方からの「ご出身は」という問いかけで、その方が連れ合いと

同郷であることが判りました。連れ合いとの話に花が咲きましたが、短い時間でしたので、話が尽きなかったようです。外に出かけると、思いがけない出会いがあるものです。

記憶に残る楽しい会合でした。ビアフェストをお世話頂いた方々、並びに、会場をご提供くださった原田副会長へ心より感謝申し上げます。

● ドイツ仕込みのハム・ソーセージ ●

本格的なドイツの味を
ぜひご賞味下さい。

Jリーグ「サガン鳥栖」の
鳥栖スタジアムに
ドイツ風ソーセージ屋台

OPEN!!



ハム・ソーセージ工房

イフスキ

☎842-0302 佐賀県佐賀市三瀬村藤原 3796-3

Tel 0952-56-2781

Fax 0952-56-2782

営業時間／AM 1000～PM 600 毎週火曜日定休

西ドイツに派遣された日本人炭鉱マンの体験談

元三井鉱山職員 村 谷 泰 一

私は 1958 年 3 月に西ドイツのルール地区炭鉱に三井鉱山より派遣された。1955 年労働省は、西ドイツの炭鉱技術を習得し、西欧民主主義国の労働事情を体験すると共に、西ドイツの炭鉱労働力不足緩和に寄与し、併せて日独の親善を深めることを目的として、我が国の炭鉱労働者 500 人を 3 年間、西ドイツのルール地区に派遣する計画を立案、西ドイツに提案し、翌 1956 年、両国によりこの派遣事業の実施が決定された。私の派遣はこの事業の第 2 陣であった。日本側には、若い炭鉱マンに西ドイツの優秀な技術を学ばせて、将来のリーダーを育成し、更には、当時絶大な勢力を誇っていた炭労の「政治闘争」に対し、ヨーロッパ式「経済闘争」を学ばせたいとの意図があった。

旧満州からの引揚者であった私は、大変苦しい小・中学校時代を余儀なくされ、学資を必要とせず、就職先も保証されていた三井三池鉱業学校に進み、卒業後は三川鉱で働き、定時制高校機械科三年に通っていた。その時会社の掲示板で西ドイツ炭鉱労働者募集を知った。種々の応募資格をクリアして、東京タワーも新幹線もまだ無く、日本の飛行機が外国に飛ぶことも出来なかった時代に、21 歳の私は西ドイツで三年間を過ごすために出発した。以下はその体験談である。

会社・組合関係者、家族、友人に見送られて大牟田駅を夜行で発ち、東京着、全国から選抜された他の炭鉱労働者と共に、十日間の渡航前講習を受け、3 月 25 日スカンジナビア航空で羽田を発った。プロペラ機で南回り、途中給油のための着陸が二度、目的地のデュッセルドルフに着陸したのは 48 時間後であった。出迎え陣の歓迎を受け、

直ちにバスで寮に送り込まれた。私たちのベイフォフェン寮には、三池 13 人、常磐 10 人、杵島 2 人、連絡員 1 人、合計 26 人がお世話になった。一ヶ月の食費 150 マルク、洗濯代 20 マルク、靴下の繕いまでしてくれたのには驚いた。

到着第一夜のこと、誰が誘うともなく、ピヤホールに繰り出した。高度成長期の当時の西ドイツでは外国人労働者は珍しくはなかったが、日本人となると話は違った。ルール炭坑町に初めて登場した日本の若い炭鉱マンの私たちを、彼らは心から歓迎してくれた。年配の男たちは、俺のおごりだ飲め、俺は日本人が好きだ飲め、日本の息子たちよ飲め、と私たちのテーブルの上はビールの山となった。次は第三夜のこと。「おい、ヤパーナー！日本には自動車はあるか」「日本は人力車だろう」相当酔っているので、相手にしなければよかったのだが、「自動車なんか日本にもあるさ」「俺運転できるよ」「そんなら俺の自動車を運転してみよう」ということで、行掛り上私はドイツ人 1 人と同僚の日本人 3 人を乗せ、電車通りを猛スピードで飛ばすことになった。助手席のドイツ人が、ゆっくり走れと言っていたのだが、当時はまだ誰もその言葉が理解できなかった。結局パトカーのお世話になることになった。同乗していたドイツ人がその場は切り抜けてくれたものの、大変なことをした、強制送還されるのではないかと、眠れない夜が続いた。仕事の間はまだ忘れられたが、ドイツ語の勉強の時間は事件のことで頭は一杯、ドイツ語が頭に入らない。遂にケルンの裁判所に出頭することになり、法廷ではボン大学の日本語の先生が通訳として付いてくれた。私の免許証を出し、

通訳の先生が「自動車運転免許証」と日本語で読み上げてから、ドイツ語に訳し、これで一件落着、無罪となった。通約料 70 マルクは日本人 4 人で割勘にした。

ドイツの鉱山保安規則では「労働者は上司や同僚の口頭による指示を正しく理解し応答できるだけの十分なドイツ語が出来る場合にのみ、坑内作業に従事することが許される」ので、私たちは 6 週間、午前中は坑外作業、午後はドイツ語の勉強をした。炭鉱用語や工具の名前などを習うのである。鉱山独特の用語が少なくないが、鉱山の挨拶 Glück auf ! (ご安全に!) は素晴らしい挨拶である。その語源は遠くハルツ鉱山の歴史の中にある。銀鉱を開発するために坑道をあけるのだが、数メートルの厚さと巾の鉱脈でも、時としてたちまち消えて無くなることがある。そこで鉱山関係者は glücklich a u f t u n (どうぞ大直りをしますように) と願った。その後この言葉が鉱山で一般に使われるようになったのである。この素晴らしい挨拶 Glück auf ! は、いまや西ドイツ炭鉱派遣団でルール炭田へ渡った 436 名と現地で連絡員として世話役をされた方およびその家族によって形成される親睦会の名称になっている。

同年 6 月 12 日、坑内入坑試験に合格。坑内労働の開始である。午前 4 時、守衛が起こしに来る。朝食を済ませ、自分で作ったドッベルと呼ばれる簡単なハムサンドと水筒を持って、5 キロの道を会社まで自転車を走らせる。会社の入り口の到着場で自分の身分証明票番号を口頭で告げて、番号札を受け取る。シャワー室前で天井高く吊り上げられた籠を降ろし、作業服に着替え、保安用具を取り出し、籠を再び天井に吊り上げて施錠する。安全灯室で自分のランプを受け取り、CO フィルターを首に掛け、立坑ゲージ前で搭乗順番を待つ。一回の搭乗人員は 20 人、地下 900 メートルまで 1 分 30 秒で降下する。採炭現場までは人車で行く。石炭採掘にはホーベル採炭機を使う。ホーベルとはドイツ語でカンナのことで、このカンナの刃を炭壁に当てて削り取り、パンツァコンペアーで運

搬する。その後空洞化した跡を鉄柱で保坑し、鉄柱を回収し再使用する。削り、保坑する。これを繰り返して延びたメーターで賃金が決まる。カッペ延長も立柱も一人でしないと、ノルマは達成しない。落盤事故を起こさないように必死だ。8 時間労働で、休憩時間は無い。炭塵で真っ黒、歯だけが白く光る。どこの国の人だか判らない。

忘れもしない 1985 年 9 月 6 日 (土曜日)。私は一番方で、現場はホーベル払いの終端機械座、人力で炭壁を除去してエンジンを前進させる作業だった。いつものように炭壁を切付けていたが、11 時 30 分頃、突然風圧で身体を炭壁に叩き付けられる。落盤だ。7 人が生き埋め、3 人は死亡。4 人は 6 時間後に救出される。私の足元では若いユーゴ人が自国語で助けを求めているが、ポンプの故障で増水して口まで来たのか、言葉にならない。私の足元も水。「死んでたまるか!」最後に救出された私は、クンペル (仲間) の遺体の一部と一緒にゲージに乗って昇坑した。誰もいない時間外のシャワーは、水だけしか出ない。ドイツの 9 月はもう寒い。冷たい水で身体を洗いながら、手もある、足もあると思うと、涙が流れて顔だけが温かかった。まだ 8 時頃なのに誰とも出会わず、ペイフォヘンの寮までの自転車は重く、外国に居ることを実感した。月曜日は三番方なので、葬儀に出席した。一人ずつ前に進んでお祈りをする順番を待っていると、ドイツ人から行くなと止められた。なぜ駄目なのか理解できなかったが、宗教の違いと判断して寮に帰り、その後出勤した。立坑ヤグラの上には半旗が掲げられていた。到着場の横には葬儀に使用した、黒いリボンが付いたままのカンテラが 12 個置いてあった。大崩落の現場はまるで幽霊屋敷だったが、エンジンの音は物凄く、何事もなかったかのように生産は始まっていた。ドイツに来て半年の出来事だった。当時の新聞には「19 歳のユーゴ人の遺体、無言の帰郷」と報じられていた。

半年過ぎるとドイツ語も少しできるようになり、買い物が楽しくなるが、失敗も多い。肉屋さんで

ソーセージ Wurst のつもりで、胸 Brust を注文してしまった。店の奥さん曰く、「生憎ですが、自家用しかありません」。小さな落石事故で左脚大腿部を浅く切り、一日入院した。朝、看護婦さんが枕元で、「どうぞキスを」と言ったので大いに驚いたが、Kissen 枕と Küsse キスの聞き違いであった。その他、発音が悪いため誤解されたことなど数え切れない。

寮の近くにピヤホールがあり、入り口に青ランプが点灯していたので、私たちは「青ランプ」と呼んでいた。土曜と日曜にはバンドが来て、マーチやワルツを演奏し、ダンスが踊れた。私はこのピヤホールでポーランド系の 18 歳の女性と出会う。クリステルは 1 マルクを持って 20 時頃に現れ、50 ペニツヒのコカコーラ 1 本で終日ねばる。残りの 50 ペニツヒで 1 曲 50 ペニツヒのジュークボックスの曲を掛ける。ボナセラ、セノリラ、ボナセラ。始めはスロウ スロウ クイックから、曲が徐々に速くなり、ジルバに変わる。当時はプレスリーやポール・アンカが全盛で、ジルバを踊る人は少なく、私たちが踊るときは、皆が見とれて拍手喝采だった。



寮の前で近所の子供たちに囲まれた若き日の筆者

1959 年の 4 月に私は自動車運転免許を取り、11 月にはハワー国家試験の講習を受け始めた。日曜を除く毎日、1 日 3 時間の講習を 5 ヶ月間受け、1961 年 3 月、無事に試験に合格した。クリステルの家は私の寮の前で、彼女はハワー講習の予習

復習、ドイツ語（特に発音）の勉強の際の厳しい先生だった。時々、夜勤の折などに当時高価だった果物を持って来てくれた。厳しい坑内労働の私にとって、アップルジーネは心まで癒してくれた。

1961 年 3 月の帰国の直前、クリステルのお姉さん宅で私の送別会をして頂いた。初めての訪問なのにお土産も持たず、クリステルの言うままに行動した。部屋に入ると、すでにご馳走が並べられていた。お姉さんのご主人と 4 人、会話は弾まず、時間だけが過ぎた。お姉さんが「明日から村谷はいないのネ」と言ったとき、クリステルは大声で泣いた。どう慰めてよいか、今まで習ったドイツ語はどこに行ったやら、一言も出て来なかった。彼女をオートバイで送るとき、後部席に乗った彼女が「私の部屋の窓辺に花を置いて」と言った。「明日の朝、窓を開けて花があったら、私たち又会うことができるの」とも言った。家の前に着くとクリステルは走り去り、ドアを閉めた。鍵の音だけが大きく響いた。2 年 6 ヶ月の「Schöne Zeit」は終わった。

1961 年 3 月 20 日、パリからエアーフランスと日本航空共同の旅客機で帰国。東京のデパートのドイツ製カメラに、21 万 5 千円の値札が付いていた。ドイツまでの片道飛行運賃の額であり、日本の炭鉱の坑内で 1 年間、飲まず食わずで働いても無理な金額だった。「窓辺に一輪の花」を置かなかったのはよかったのか？ 今の若者が嫌う 3K --- きつい、汚い、危険な労働を先進国で経験したことは、個人的には計り知れない意義があった。炭鉱の坑内での重労働を思えば、どんな仕事も苦にならない。

帰国後、三川鉱でも炭塵爆発から逃れた。その後はドイツから三川鉱への技術移転に際して、ドイツ人技師の通訳とその後の現場管理指導を行ったり、また、インドネシアやカリマンタンで炭鉱技術指導に当たるなどの機会に恵まれた。平成 3 年には坑内災害防止に努めたことにより黄綬褒章を頂くことができた。ドイツに行けてよかった、と心から思っている。

欧州連合とは何か？ それは何を意図し、何ができるか？

フェヒタ大学社会学講師 ヘルムート・グロース

欧州連合は 1958 年より続く、ヨーロッパ諸国の自主的な連合であり、その目的は加盟国の平和と自由、幸福を守ることにある。民主主義的国家秩序と多様性を認める社会秩序を持つ全ての国家が加入することができる。加盟国は人間の自由の権利、行政の遵法性、国家権力から独立した司法、宗教と良心の自由、そして少数派の保護という考えを共有する。また加盟国は、共通の市場における商品、サービス力、労働力の自由な流通といった競争圧力に十分対応できるほどに発達した市場経済を持つ義務を負う。

この国家連合は 1958 年に経済・関税上の連合体である「欧州経済共同体」EWG としてスタートし、1972 年には政治的連合という目標が加わって「欧州共同体」EG という名称になった。1992 年のマーストリヒト条約以降は「欧州連合」EU という名称になっている。

EU の主たる組織はヨーロッパの三つの主要都市にある。議会総会の所在地であるストラスブール、議会の行政機構、欧州司法裁判所、欧州投資銀行の所在地であるルクセンブルク、議会の委員会会議所、欧州委員会、欧州理事会、閣僚理事会の所在地としてのブリュッセルである。委員会で EU の政策が作成され、欧州理事会、閣僚理事会で各加盟国の国家利益に関する議論が行われる。

1950 年代に、ヨーロッパの中核 6 ヶ国、オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、フランス、イタリアそして西ドイツの政治家たちが計画をまとめた。それが目指したのは、重要な領域において共通の経済政策を実現し、相互の緊密な結び付きによって、国家間の戦争を不可能にすることで

あった。この目的は達成され、当時は核となる分野である経済が、より一層の政治的共同化のための第一歩となると期待された。これに対抗して、他の西ヨーロッパ諸国は 1960 年に欧州自由貿易連合 EFTA を設立した。加盟国は、ポルトガル、デンマーク、中立諸国家スウェーデン、スイス、オーストリア、そして非植民地化に取り組んでいたイギリスである。しかし EWG が EFTA よりも経済的に成功を収めるのを見て、イギリスとデンマークは方向転換し、1973 年にアイルランドとともに EWG の新たな組織 EG に加盟した。オーストリア、スウェーデン、スイスも加盟を申請した。



グロース先生と御息のフィリップさんを囲んで

拡大した EG は成功の道を歩みつづけ、1981 年にギリシア、1985 年にスペインとポルトガルを受け入れた。

東ヨーロッパにおける社会主義崩壊の後、東ドイツは 1990 年のドイツ統一をもって自動的に EU の一部となり、同様に NATO にも加わった。冷戦時代に西と東の間で中立を維持していた

スウェーデン、フィンランドとオーストリアも1995年にEUに加盟した。社会主義の崩壊によって、東ヨーロッパ中央部の諸国は中央ヨーロッパ国家とその文化社会に復帰できた。EUは、民主主義、法治国家、市場経済への転換に成功したすべての国に、EUへの加盟を約束することによってこの経過を支援した。そのようにしてバルト3国エストニア、ラトヴィア、リトアニア、ならびにポーランド、チェコ、スロヴァキアとハンガリー、加えて解体したユーゴスラヴィアの一部であったスロヴェニアの国々が、2004年にEU加盟を果たし、さらにマルタとキプロスに加わった。

EUは、ブリュッセルからの資金援助による地域開発、国境の共同防衛、共同の外交政策などの共同政策を取ってきた。とはいえ、加盟国はあくまで主権独立国家であるということを忘れてはならない。共同作業にどの程度関わるかは、加盟国自身の判断によるのである。拡大EUのために2004年に再編された憲法条約は、オランダとフランスの国民投票で過半数によって否決された。EUはそれを受け、他の未決定の加盟国における批准のプロセスを停止し、それ以来「まず熟考か、EUのさらなる拡大か」というテーマで論議が続いている。

憲法草案の推進に関して、2007年前半に順番が回ってくるドイツのEU委員会委員長に大きな期待がかかっている。それはドイツが人口8200万という最大の住民数を誇る参加国であるからである。フランスとドイツの二人乗り自転車は、40年にわたってヨーロッパの統一過程の主力エンジンであった。他方、最も懐疑的な加盟国はイギリスであったし、現在もそうである。ルーマニアとブルガリアの加盟（2007年）はすでに決定済みであり、グルジアとウクライナは、その不透明な政治的体制のため目下交渉は中断されている。メディアにおいて最も報じられているのは、トルコとの加盟交渉である。トルコの人口は約7500万で、住民数では二番目に大きな加盟国ということになる。しかしながら、国土面積のうちヨーロッ

パに属しているのは僅かな部分にすぎないし、国内にはイスラム原理主義内部の激しい対立がある。欧州議会でも賛成と反対の対立は厳しい。今後もこの問題をめぐって長期に亘る論議がなされるであろう。

EUは合計4億5000万人の経済圏を持っている（アメリカ2億9700万人、ロシア1億4200万人、日本1億2700万人）。経済上の問題、地方政治上の問題、内政と安全保障政策上の問題で、EUは統一過程の途上にある。しかしまた（1958年以来常にそうであるように）内部に問題も抱えており、これが今日主要な課題となっている。

現状の課題としては、憲法の条約を受諾することによってEUの機関の数を今の加盟国数に合わせることに、閣議では全会一致の代わりに多数決をもって決定すること、限られた数のEU委員（今は25、加盟国につき1名）で行うこと、ヨーロッパ外相を選定することなどが挙げられる。また言語政策の改革も必要で、個々の委員会の文書を22ものEU言語全てに翻訳する作業は限界に達している。

あらゆる政策分野の閣議と政府議会において、加盟国の国家的利害がしばしば対立、衝突する。これまでは大抵、粘り強い交渉によって妥協点を見出してきた。ただ、外交と保障政策においては挫折の連続であった。この不一致が4年前ついに顕在化した。アメリカがイラクの独裁者転覆のため、ヨーロッパに同盟国を探したとき、この問題はEUの共同決定ではなく、加盟国によって国ごとに決定された。リスクが高く、重大な結果を招くジョージ・W・ブッシュの戦略と政策にイギリス、スペイン、イタリア、ポーランドなど10ヶ国が従った。残りの加盟国はブッシュを拒否したが、とりわけ激しかったのはフランスとドイツで、しかもロシアと合意の上であった。EUの共同外交政策は、私の考えでは、共同の保障政策についてNATOと協調した上で進められるべきである。EUの政治的司令部はNATOと同じくブリュッセルにあり、またほとんどの重要なEU諸国は同時

に NATO 加盟国でもあるからだ。安全保障上の問題は（軍事上の問題は外交問題の一部であるので）複雑な外交政策の問題を解決するよりも簡単であるはずだ。（翻訳・要約：田野 武夫氏）

〔注：この間、2007 年 1 月 1 日からルーマニアとブルガリアが正式に加盟し、加盟国は 27 カ国、

総人口は 4 億 9300 万人となった。なお、本例会には、現在 EU ブリュッセル本部の外交部に勤務されているグロース氏の御子息フィリップ・オリヴァー・グロース氏も同席され、会場の質問に答えられた。〕

〔講演原文 2007 年 3 月 29 日時点で若干の補足修正が施されている〕

Was ist die Europäische Union, was will sie und was kann sie?

Dr. Helmut Gross

Lehrbeauftragter für Sozialwissenschaft an der Hochschule Vechta

1. Was ist die EU?

Die EU ist, kurz gesagt, ein freiwilliger Zusammenschluss europäischer Staaten seit 1958 zur Sicherung von Frieden, Freiheit und Wohlstand mit offener Mitgliederzahl. Aufgenommen werden können alle die Staaten Europas, die eine demokratische Staatsordnung und eine pluralistische Gesellschaftsordnung haben, mit Freiheitsrechten der Person, Gesetzmäßigkeit der Verwaltung, Rechtsstaatlichkeit unabhängiger Justiz, Religions- und Gewissensfreiheit sowie Minderheitenschutz. Die Mitglieder verpflichten sich auf die Lösung von Interessengegensätzen und politischen Konflikten durch Verhandlungen, nicht durch Gewalt. Sie müssen ein marktwirtschaftliches ökonomisches System haben und eine gemeinsame Agrarpolitik. Um Mitglied werden zu können, muss man sich auf demokratische Werte und Strukturen verpflichten. Man muss eine Marktwirtschaft haben, die so weit entwickelt ist, dass sie dem Konkurrenzdruck des freien Austauschs von Waren, Dienstleistungen und Arbeitskräften im gemeinsamen Binnenmarkt gewachsen ist.

Dieser Staatenbund startete 1958 als *Europäische Wirtschaftsgemeinschaft (EWG)* mit einer Wirtschafts- und Zollunion und heißt seit 1972 *Europäische Gemeinschaft (EG)*, weil das erstrebte Ziel einer politischen Union hinzukam. Seit dem Vertrag von Maastricht 1992, in dem u. a. eine europäische Regional- und Strukturpolitik und das sogenannte Subsidiaritätsprinzips verankert wurden, heißt die Gemeinschaft *Europäische Union (EU)*. Subsidiarität bedeutet, dass alles, was durch niederere Instanzen vor Ort oder in der Nähe politisch und administrativ besser gelöst werden kann als durch höhere Instanzen weiter weg, auch dort angesiedelt werden soll.

Der kleine Kontinent Europa ist eine Kultur- und Wertegemeinschaft, bestehend aus einer geschichtlich entstandenen Vielfalt von Stämmen, Völkern und Sprachen sowie einer Mehrzahl christlicher Konfessionen (römisch-katholisch, protestantisch, orthodox) und auf dem Balkan als Folge des Osmanischen Reiches dem Islam. Durch Einwanderung von Arbeitskräften und Flüchtlingen aus Balkanländern, der Türkei und den arabischen Anrainerstaaten des Mittelmeers gibt es Muslime inzwischen als starke Minderheit auch in vielen anderen europäischen Ländern – Europa ist aber auch ein Kontinent, in dem Völker und Staaten jahrhundertlang gegeneinander regionale Kriege führten (um Erbfolgen, die richtige Religion und um Territorien), zuletzt im 20. Jahrhundert zwei verheerende Kriege, die die ganze Welt in Mitleidenschaft zogen, sowie in den 90er Jahren einen regional ebenso verheerenden Bürgerkrieg zwischen den Volks- und Religionsgruppen im zerfallenden Jugoslawien.

Die Europäische Union will die Vielfalt der Kulturgemeinschaft des Kontinents einerseits garantieren, andererseits wirtschaftlich und politisch einigen – nicht durch einen Bundesstaat nach US-amerikanischem Vorbild (also nicht durch „Vereinigte Staaten von Europa“), sondern durch einen Staatenbund, bei dem die Mitgliedsstaaten nur einzelne Souveränitätsrechte an die EU-Zentrale abtreten. Diese Zentrale wird meist „Brüssel“ genannt, obwohl es drei europäische

Hauptstädte gibt: Straßburg als Sitz der Plenarsitzungen des Parlaments, Luxemburg als Sitz der Verwaltung des Parlaments, des Europäischen Gerichtshofs sowie der Europäischen Investitionsbank, Brüssel als Sitz der Ausschussberatungen des Parlaments, der Europäischen Kommission sowie des Europäischen Rats oder Ministerrats. In der Kommission wird EU-Politik gemacht, im Europäischen Rat kommen die nationalen Interessen der Mitgliedsländer zur Geltung.

2. Wie entwickelte sich die EU?

In den 50er Jahren des 20. Jahrhunderts fassten weitsichtige Politiker der sechs kerneuropäischen Staaten Niederlande, Belgien, Luxemburg, Frankreich, Italien und Westdeutschland den Plan, durch eine gemeinsame Wirtschafts- und Zollpolitik in wichtigen Bereichen (damals: Kohle und Stahl, Agrarwirtschaft und zivile Nutzung der Atomkraft) sich freiwillig so eng zusammenzuschließen, dass es zwischen ihnen wegen politischer Konkurrenzen oder ethnischen oder wirtschaftlichen Interessenkonflikten keine Kriege mehr geben konnte. Dieses Ziel wurde erreicht. Der Kernbereich Wirtschaft sollte damals Anstoß und Beginn für eine Vergemeinschaftung weiterer Politikbereiche in der Zukunft werden und soll es noch immer sein.

Andere westeuropäische Staaten entwickelten 1960 eine Konkurrenzgründung dazu, die *European Free Trade Association* (EFTA): Portugal, Dänemark, die neutralen Länder Schweden, die Schweiz und Österreich und das mit seiner Entkolonialisierung in vielen Teilen der übrigen Welt beschäftigte Großbritannien. Diesem Bündnis ging es nur um eine wirtschaftliche Freihandelszone, ohne jede darüber hinausgehende Vergemeinschaftung anderer Bereiche von Staat und Gesellschaft. Die EFTA gibt es noch immer, inzwischen nur bestehend aus vier Klein- und Kleinstländern Westeuropas, nämlich Island, Norwegen, der Schweiz und Liechtenstein. Letzteres ist ein Zwergstaat am Hochrhein, der sich sonst außenpolitisch von der Schweiz vertreten lässt.

Nachdem sich die EWG schnell als wirtschaftlich erfolgreicherer Modell erwies als die EFTA, schwenkten Großbritannien und Dänemark um und traten zusammen mit Irland 1973 der EG bei; Österreich, Schweden und die Schweiz beantragten die Assoziierung an sie. Diese erstmals erweiterte EG blieb auf Erfolgskurs und nahm 1981 Griechenland auf, 1985 Spanien und Portugal. Nach dem Zusammenbruch des Sozialismus in Osteuropa trat die DDR 1990 der BRD bei und wurde damit automatisch Teilgebiet der EU (genau wie auch der NATO). Und nachdem die Systemkonkurrenz „politischer und wirtschaftlicher Liberalismus versus Sozialismus“ beendet war, traten auch Schweden, Finnland und Österreich, die im Kalten Krieg zwischen den Westmächten und dem Ostblock neutral geblieben waren, 1995 der EU bei.

Durch den Zusammenbruch des Sozialismus konnten die Staaten im mittleren Osteuropa sich vom sowjetischen bzw. wieder russischen Einfluss frei machen und in die mitteleuropäische Staaten- und Kulturgemeinschaft zurückkehren. Die EU unterstützte diesen Prozess, indem sie all jenen von ihnen, die die Umkehr zu Demokratie, Rechtsstaatlichkeit und Marktwirtschaft erfolgreich angingen, die Beitrittsmöglichkeit in Aussicht stellte. Das bewältigten bisher erfolgreich die drei baltischen Staaten Estland, Lettland und Litauen (die als Folge des Hitler-Stalin Paktes von 1939 sowjetisch geworden waren) sowie Polen, Tschechien, die Slowakei und Ungarn, zudem eine kleine Teilrepublik des zerfallenen Jugoslawiens, nämlich Slowenien. Sie konnten 2004 der EU beitreten, außerdem (nach einem vorangegangenen Regierungswechsel) Malta sowie Zypern. Letzteres trat bei – das ist ein Schönheitsfehler –, ohne die 1974 erfolgte Teilung der Insel in einen Südtail aus griechischen und einen Nordteil aus türkischen Zyprioten überwunden zu haben. Der türkische Nordteil gehört nun zwar nominell zur EU, steht aber weiterhin unter türkischer Militärverwaltung.

Zum 1.1.07 wurden Bulgarien und Rumänien Mitglieder der EU. Jetzt soll vorerst niemand neu aufgenommen werden, sondern es muss eine Konsolidierungsphase folgen, in der der Verfassungsvertrag von allen 27 Mitgliedsstaaten ratifiziert werden und die notwendigen organisatorischen Reformen durchgeführt werden sollen. Das trifft vor allem Kroatien hart, das wirtschaftlich und politisch fast so weit reformiert ist wie Slowenien. Der Grund für seine Nichtaufnahme liegt darin, dass es bisher nicht genügend mit dem Internationalen Tribunal zur Aufklärung der Kriegsverbrechen im ehemaligen Jugoslawien zusammenarbeitet.

3. Was will die EU?

Die EU geht den historisch einmaligen Weg, nicht durch Heiratspolitik, Gewaltandrohung, Eroberung oder Annexion als Instrumente der Vergangenheit, sondern durch freiwilligen Zusammenschluss über eine erfolgreiche Wirtschaftsunion zu einer politischen Union von möglichst vielen der europäischen Länder zu kommen. Ein Schwerpunkt ist seit ihrer Gründung der gemeinsame Agrarmarkt. Er verschlingt durch Subventionen (in der Art, wie Sie es von den Reissubventionen in Japan kennen) rund die Hälfte des Gesamtetats. Spätestens seit das Agrarland Polen mit seinen 38 Millionen Menschen 2004 beigetreten ist, besteht hier Reformbedarf. Den Bedarf möchte vor allem Großbritannien verwirklicht sehen, während Frankreich und Spanien bremsen, weil sie eine starke Landwirtschaft haben und hohe Subventionszahlungen bekommen. Diese planwirtschaftlich angelegte Agrarpolitik entstand in den 50er Jahren, weil man noch dem traditionellen Gedanken anhing, dass jedes Land für Notzeiten, wenn ihm die internationalen Handelswege abgeschnitten sind, eine intakte Landwirtschaft haben müsse. Deswegen wird sie durch dirigistische Maßnahmen erhalten und kostet die Steuerzahler viel Geld.

Seither hat die EU sich aber längst andere gemeinsame Politikbereiche erschlossen: die Entwicklung strukturschwacher Regionen durch Finanzhilfen aus Brüssel, den gemeinsamen Schutz der Außengrenzen, eine gemeinsame Währung sowie den Versuch einer unter den Mitgliedsländern abgestimmten Außenpolitik durch einen außenpolitischen Beauftragten, den Spanier Javier Solana (zuvor Generalsekretär der NATO).

Aber, um daran zu erinnern: Die Mitgliedsstaaten bleiben souveräne Einzelstaaten. Sie entscheiden also selber, wie weit sie bei der Gemeinsamkeit in den erwähnten Bereichen mitmachen. Von den 15 Altmitgliedern beteiligen sich z. B. Irland und Großbritannien nicht am Schengener Abkommen zum Schutz der Außengrenzen, weil sie als Inseln keine gemeinsamen Grenzen zu Lande mit anderen Staaten haben. Griechenland beteiligt sich mit Einschränkungen daran, weil es bisher Grenzen zu Lande nur mit den Nicht-EU-Ländern Albanien, Mazedonien und Türkei hat. Großbritannien, Dänemark und Schweden beteiligen sich bisher nicht an der gemeinsamen Währung, dem Euro. Dafür gehört das wirtschaftlich erfolgreiche Slowenien als erstes der zehn Beitrittsländer von 2004 ab 01.01.07 zur Eurozone. Durch Assoziation gehört auch der Kirchenstaat (Vatikan) dazu. Seine Euro-Münzen erlebt man praktisch nicht im Umlauf, sie sind begehrte Sammlerstücke.

Ein Kuriosum am Rande: Frankreich hat noch immer einige Kolonien im nordöstlichen Südamerika und im indischen Ozean. Auch sie gehören zur Eurozone.

4. Wo steht die EU?

Der von einem Konvent unter Leitung des früheren französischen Staatspräsidenten Giscard d'Estaing ausgearbeitete Verfassungsvertrag für die erweiterte EU von 2004 wurde 2005 durch Volksabstimmungen von einer Mehrheit der Bevölkerung in den Niederlanden und in Frankreich abgelehnt. Die EU setzte daraufhin den Ratifizierungsprozess in all denjenigen Mitgliedsländern aus, in denen Parlamente nicht bereits zugestimmt hatten. Seither gibt es Überlegungen und Diskussionen zum Thema „zuerst Vertiefung oder weiterhin Erweiterung der EU“. Große Hoffnungen in der Frage der Durchsetzung des Verfassungsentwurfes werden auf die EU-Ratspräsidentschaft Deutschlands im ersten Halbjahr 2007 gesetzt. Dies deshalb, weil Deutschland mit seinen 82 Millionen Einwohnern das bevölkerungsstärkste Mitglied ist und entsprechendes politisches Gewicht hat und weil unsere Kanzlerin Angela Merkel eine überzeugende Rolle auf der europäischen Bühne spielt.

Zuvor war das Tandem Frankreich und Deutschland 40 Jahre lang der hauptsächliche Motor des europäischen Einigungsprozesses, während das am meisten euroskeptische Mitgliedsland Großbritannien war und ist. Von Frankreich und England werden neue Initiativen erst kommen, wenn in diesem Jahr dort ein neuer Staatspräsident bzw. Ministerpräsident gewählt ist, also Nachfolger für Jacques Chirac und Tony Blair gefunden sind.

Am meisten wird in den Medien über die Beitrittsverhandlungen mit der Türkei berichtet. Sie würde mit knapp 75 Millionen Menschen zweitstärkstes Mitglied sein. Ihr Staatsgebiet gehört aber nur zu einem geringen Teil zu Europa. Der

größte Teil liegt in Kleinasien, wobei der östliche Teil (Anatolien) ökonomisch sehr unterentwickelt ist. Außerdem lebt dort hauptsächlich eine von der türkischen Mehrheit nicht gleichberechtigt behandelte Minderheit von Kurden. Auch gibt es in diesem Land heftige Spannungen zwischen laizistischen Modernisten einerseits und muslimischen Fundamentalisten andererseits. Die sozialdemokratischen und sozialistischen Parteien im Europäischen Parlament bejahen mehrheitlich die Aufnahme der Türkei, die christdemokratischen und konservativen Parteien sind strikt dagegen. Für die erste Position gibt es vor allem politische, für die zweite Position kulturelle Gründe. Es wird also noch ein langes Hin und Her in dieser Frage geben.

Dringlicher als diese Frage scheint mir zu sein, wie die EU mit den noch nicht erwähnten Kleinstaaten auf dem Balkan verfährt: Montenegro hat sich 2006 von Serbien gelöst und ist selbständig geworden. Serbien hat keine Chance auf Beitrittsverhandlungen, bevor die seit Jahren untergetauchten bosnischen Hauptkriegsverbrecher Radovan Karadžić und Ratko Mladić an das Kriegsverbrechertribunal in Den Haag ausgeliefert worden sind. Albanien ist ein äußerst rückständiges muslimisches Land und hatte in der Nachkriegszeit einen Steinzeitkommunismus à la Nordkorea. Mazedonien hat albanische und bulgarische Minderheiten und wird von Griechenland nur widerwillig anerkannt. Und vielleicht entsteht durch Abtrennung des Kosovo von Serbien wegen seiner albanischen Bevölkerungsmehrheit demnächst dort ein weiterer Kleinststaat. Albanisch bedeutet auch hier: muslimisch. Bosnien-Herzegowina hat ebenfalls eine muslimische Bevölkerungsgruppe. Sie kooperiert und konkurriert mit dem kroatisch-katholischen Bevölkerungsteil in einer Föderation, die in starkem Gegensatz zum serbischen Bevölkerungsteil steht.

Der Balkan war schon im 19. Jahrhundert ein europäischer Unruheherd. Alle seine Länder, einschließlich Griechenland haben ethnische Minderheiten. 1914 entstand in Sarajewo durch das Attentat auf den österreichischen Thronfolger und seine Frau der Anlass für den Ersten Weltkrieg. Im Zweiten Weltkrieg gab es deutsche Besetzung und Partisanenkriege. In den 90er Jahren brachen Bruderkriege zwischen den katholischen Kroaten, den orthodoxen Serben und den Muslimen in verschiedenen Teilen des zerfallenden Jugoslawien mit unvorstellbarer Barbarei und Grausamkeit aus. Es wäre dringend nötig, dass die EU auch hier friedentiftend wirken würde, denn diese Länder sind ein Teil Europas. Aber wegen der völlig unterentwickelten Wirtschaft und der weiter vorherrschenden politischen Kultur der Gewalt kann die EU dort nicht überall einen gleichen Prozess von Wohlstand, Freiheit, Frieden durch wirtschaftliche Entwicklung unterstützen, wie in den 50er Jahren bei den sechs kerneuropäischen Ländern.

5. Was kann die EU?

Die EU hat es vermocht, ihren 15 Altmitgliedern ökonomisches Wachstum, Steigerung des Lebensstandards ihrer Bürger, Freizügigkeit, einen gemeinsamen Binnenmarkt und Niederlassungsfreiheit sowie die Entwicklung strukturschwacher Regionen zu bringen. Unter den zehn neuen Mitgliedern von 2004 hat dieser Entwicklungsprozess in Slowenien am erfolgreichsten begonnen (wie erwähnt), dann folgen Tschechien, die Slowakei und Ungarn. Die kleinen Inselstaaten Malta und Zypern spielen dagegen eine Sonderrolle, Malta ökonomisch und touristisch erfolgreich, Zypern gehandicapt durch seine fortdauernde Teilung. Polen hat derzeit wegen einer innen- und außenpolitisch konservativen Rückwendung auf sich selbst noch Schwierigkeiten, einen seiner Größe und Bedeutung als mittelgroßes Land angemessenen Platz in der Europäischen Gemeinschaft einzunehmen. Insgesamt hat dieses Projekt EU einen einheitlichen Wirtschaftsraum von jetzt 493 Millionen Menschen. Zum Vergleich: Die USA haben 297 Millionen, Russland hat 142 Millionen, Japan 127 Millionen. Die EU ist ökonomisch, regionalpolitisch, innen- und sicherheitspolitisch weiterhin auf Einigungskurs, hat aber auch (wie immer in ihrer Geschichte seit 1958) interne Probleme. Diese sind jetzt hauptsächlich:

Die Gemeinschaft hat es in den letzten 15 Jahren nicht vermocht, die Vorteile des erweiterten Einigungsprozesses (Frieden, Sicherheit und Wohlstand von Portugal und Irland im Westen bis zu den Ländern von Finnland im Norden bis Griechenland im Süden) den Bürgern der alten Mitgliedstaaten nahe zu bringen. Viele von ihnen sehen in der europäischen Hauptstadt Brüssel ein technokratisches Monstrum mit lebensfernen Entscheidungen am Werk, weil ihre

Sicht sich auf die Nachteile und nicht die Vorteile richtet, die die EU ihnen bringt. Ihr muss es jetzt gelingen, ihre Institutionen durch Annahme des Verfassungsvertrags der jetzigen Mitgliederzahl anzupassen, mit Mehrheitsentscheidungen statt Einstimmigkeiten im Ministerrat, mit einer Vielzahl von EU-Kommissaren (jetzt sind es 27, für jedes Mitgliedsland einer) sowie mit einem europäischen Außenminister und einer gemeinsamen Außen- und Sicherheitspolitik. Auch bei der Sprachenpolitik muss reformiert werden. Denn bei den jetzt 22 EU-Sprachen kann nicht mehr jedes Ausschusspapier in alle von ihnen übersetzt werden. Dieses Problem könnte gelöst werden, indem man sich für die Textproduktion auf die drei Amtssprachen Französisch, Englisch, Deutsch beschränkt. Im Parlament aber müssen weiterhin alle Abgeordneten die Gelegenheit haben, in ihrer Muttersprache zu reden. Das ist unbestritten. Wie aber soll es in der Vielzahl der Parlamentsausschüsse damit sein?

In allen Politikbereichen prallen im Ministerrat und bei den tournusmäßigen Konferenzen der Staats- und Regierungschefs häufig gegensätzliche nationale Interessen der Mitgliedstaaten aufeinander, aber meist wurden bisher nach langwierigen Verhandlungen Kompromisse gefunden. Nur in der Außen- und Sicherheitspolitik scheiterte dies bisher. Diese Uneinigkeit wurde zuletzt im Herbst 2002 offensichtlich, als die USA europäische Verbündete für den Sturz der Diktatur im Irak suchten und diese Frage von der EU nicht gemeinsam, sondern von den Mitgliedstaaten national entschieden wurde: Zehn von ihnen folgten George W. Bush bei seiner (wie wir inzwischen wissen) riskanten und verhängnisvollen Strategie und Politik des militärischen Eingreifens dort, vor allem Großbritannien, Spanien, Italien und Polen. Die übrigen verweigerten sich ihm, am bekanntesten und heftigsten Frankreich und Deutschland, und zwar im Einvernehmen mit Russland. Das erweckte schlimme Befürchtungen in Washington.

Die Frage einer gemeinsamen EU-Außenpolitik sollte m. E. über die gemeinsame Sicherheitspolitik in Abstimmung mit der NATO angesteuert werden. Deren politisches Hauptquartier ist ebenfalls in Brüssel, die meisten und wichtigsten EU-Länder sind gleichzeitig Mitglied von ihr, und sicherheitspolitische Fragen sind einfacher (weil einen engeren Bereich betreffend, den militärischen) als die komplexen außenpolitischen Fragen zu lösen.

6. Schluss

Die EU hat ihre zukünftigen Ziele im Blick und verfolgt ihre Realisierung flexibel und pragmatisch durch Überzeugung und freiwillige Übereinkunft, mit zum Teil gekonnten, zum Teil geschachtelten Kompromisse zwischen den Mitgliedsländern oder mit verschiedenen Geschwindigkeiten zwischen einzelnen Ländern bzw. Ländergruppen oder mit Aufschub. Das ist ein zukunftsöffnender, oft improvisierter und insgesamt spannender Prozess, wenn man ihn nicht von Ferne (s. „Monstrum Brüssel“), sondern aus der Nähe, d. h. der Perspektive seiner Akteure miterlebt. In der Diskussion nach meinem Vortrag hat mein Sohn Philipp Oliver Gross (innerhalb der Generaldirektion Außenbeziehungen der Europäischen Kommission im Referat Golfstaaten arbeitend und dabei vor allem für den Yemen zuständig) Fragen generell zur EU und zu Punkten dieses Vortrags beantwortet. Er ist privat nach Fukuoka gekommen, seine Stellungnahmen waren daher persönlich, wie er betonte, nicht offiziell.

7. Bemerkung zum Verhältnis zwischen Japan und Deutschland

Japan geht weiterhin seinen Weg einer bilateralen politisch-militärischen Allianz mit den USA, möchte aber den Artikel 9 seiner Verfassung modifiziert haben, um sich stärker in die internationale Friedenssicherung einbringen zu können. Deutschland geht dagegen seinen Weg als Mitglied in zwei Allianzen, der militärischen des Nordatlantikpakts und der wirtschaftlichen, innenpolitischen und hoffentlich auch bald außenpolitischen Allianz der Europäischen Union. Die Parallelität des Weges von Japan und Deutschland seit ca. 1870 driftet also auseinander.

Was die Zusammenarbeit in Forschung und Entwicklung betrifft, hat sich Japan von Europa ab- und immer stärker den USA zugewandt. Die Wirtschaftskontakte sind und bleiben dagegen eng und intensiv. Die Französisch- und Deutschkenntnisse nehmen in Japan aber ab, und ich habe den Eindruck, dass Europa für große Teile seiner Bevölkerung nur noch von touristischem Interesse ist. Das wäre sicherlich zu kurz gedacht, denn Europa in der Gestalt der EU ist und

bleibt in seinen wirtschaftlichen, wissenschaftlichen und kulturellen Leistungen sowie in seiner politischen Bedeutung ein *Global Player*.

Ob wir mit den Japanisch-Deutschen Gesellschaften hier und den Deutsch-Japanischen Gesellschaften dort etwas Wesentliches gegen diesen bedauerlichen Trend des Auseinanderdriftens machen können? Das lässt sich im Moment nicht schlüssig beantworten. Wir sollten aber weiterhin das Unsere zur Pflege der traditionellen Freundschaft zwischen unseren beiden Ländern tun.

8. Nachbemerkung zur Veröffentlichung

Bei einem aktuellen Thema besteht immer die Schwierigkeit, dass angeschnittene Themen sich weiterentwickeln. Das wird auch hier bis zur Veröffentlichung der Fall sein.

Den Text meines Vortrags vor der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Westjapans habe ich im März 2007 überarbeitet und ihn dabei um wichtige, seither erfolgte Veränderungen in der EU ergänzt. Aber wenn der Text dann im Sommer im Jahresbericht 31 erscheint, wird das halbe Jahr, in dem Deutschland die EU-Ratspräsidentschaft innehatte, bereits wieder zu Ende sein. Dann wird sich vermutlich zeigen, dass sich nicht alle Pläne, die jetzt noch mit großen Hoffnungen angeschoben werden (Lösung der Verfassungsfrage, Reformen zur Arbeitsfähigkeit der Staatengemeinschaft, Perspektiven für die Konsolidierung des Verhältnisses der jetzt 27 Mitglieder untereinander wie für die nächste Erweiterung (um welche der Bewerber?), gemeinsame Umwelt-, Sicherheits- und Außenpolitik – um die wichtigsten zu nennen) realisieren ließen. Da Deutschland aber in seine Pläne und Strategien die beiden Länder einbezogen hat, die ihm als Ratspräsidenten folgen werden (zuerst Portugal, dann Slowenien), wird die Hoffnung bestehen, dass ein längerfristiges Verfolgen der angestrebten Ziele möglich sein wird, als dies bei bisherigen Sechsmonatsfristen einer Ratspräsidentschaft der Fall war. Danach wird ab 01.07.08 Frankreich folgen, so dass nochmals eine Gleichartigkeit der erstrebten Ziele gewährleistet sein wird.

Zum 50. Jahrestag der Unterzeichnung der Römischen Verträge zur Gründung der EWG als Sechser-Gemeinschaft 1957 gab es am 25.03.07 eine Feier in Berlin. Der Kommissionspräsident José Manuel Barroso, die Ratspräsidentin Angela Merkel und der Parlamentspräsident Hans-Gert Pöttering unterzeichneten eine *Berliner Erklärung* mit der Festlegung, die Europäische Union (die seit ihren Anfängen als Wirtschaftsgemeinschaft mehr als eine Wirtschaftsunion, nämlich immer eine Wertegemeinschaft gewesen ist und ihre politischen Ziele einer zunehmenden Einigung ihrer Mitglieder von Anfang an im Auge hatte) bis zu den nächsten Wahlen zum Europäischen Parlament 2009 auf eine erneuerte, zukunftsfähige, gemeinsame Grundlage zu stellen. Die Beschlüsse der 27 Mitglieder dazu sollen beim Regierungsgipfel im Juni 2007 gefasst werden.

情報をまごころこめて伝えます。

城島印刷は、福岡市中央区白金の地に1969に創業。

以来38年、書籍や冊子などの《本づくり》を中心に、お客様のいろいろなご要望に応じて参りました。

これから「より細やかなサービス」と、電子ジャーナルをはじめ、ウェブサイトの提案・制作や各種プログラミング及びソフトの提案・開発など、マルチメディアにも対応して参ります。

また、出版部門の「花書院」では、各種テキストや自費出版物を扱っております。

出版・編集物についてのご相談もお待ちしております。

城島印刷株式会社

〒810-0012 福岡市中央区白金2-9-6
TEL.092-531-7102 FAX.092-524-4411

花書院

〒810-0012 福岡市中央区白金2-9-2 城島印刷ビル3F
TEL.092-526-0287 FAX.092-524-4411

安全でおいしい牛肉の生産に挑戦

九州大学大学院農学研究院 後 藤 貴 文

家畜の生産する肉やミルクは我々の重要なタンパク源です。特にウシが生産する牛肉や牛乳は、世界中で食されている主要な畜産生産物です。ドイツをはじめとするヨーロッパの肉屋では、日本ではグロテスクに思われるような肉塊や、家畜の姿が想像される枝肉状の肉、例えば吊り下げられた皮を剥いだだけのウサギ肉、豚の頭、あるいはウシやシカ枝肉の一部がそのままに販売され、家畜の“命”を頂いているという生産現場への思いがつのります。一方、日本のスーパーや肉屋では、食肉はきれいにカットされ、きれいなパックに丁寧に包まれて、畜産の現場を想像することはできません。これは、畜産生産現場と消費者の関係という観点から考えると、それらの間の“つながり”を隔てており、自分たちの食物がどこから来て、どのように生産されているのかを考えるチャンスをなくしています。私たちは、自分たちの食物がどのように生産されているのかを知ることは、安全で健康な生活を営む上で重要です。

1. 日本における牛肉生産の問題点と農業全般の問題点

近年、輸入飼料に過度に依存している日本の牛肉生産は、BSE(牛海綿状脳症)等の発生に見られる食の安全性に関する問題、集約的経営形態から排出される大量の糞尿処理問題、それに関わる環境問題、集約的な飼養形態における家畜福祉等の多くの問題を抱えています。和牛は出荷されるまでに、“ヒトの食料ともなり得る”穀物を1頭当たり5トン余りも食べていますが、その穀物飼料のほとんどをアメリカ等の諸外国からの輸入に



頼っているのが現状です。極端な言い方をすると、和牛肉と言っても、実は外国の飼料からつくられているとも言えるかもしれません。近年、石油の高騰と枯渇に対する危惧から、穀物をバイオ燃料、いわゆるバイオエタノール生産へ利用して、エネルギーに変えようとする施策が世界的に本格化しています。この施策は、日本への飼料穀物輸入量と価格に影響し、現在の畜産システムの継続にダメージを与えることは必至です。このような輸入飼料依存型の畜産では、将来BSEだけでなく、未知の伝染病が侵入してくる危険性は大きく、食の安全性への不安は強く残ります。穀物はヒトも食することができるものです。発展途上国に目を向けると、国連食糧農業機関（FAO）の調査では現在、世界中で食糧不足に悩む人は8億人以上であり、子供の餓死者は年間500万人以上であると報告されています。日本は、このような状況をしっかりと認識し、先進国として世界的な食料バランスを考慮し、少しずつでも輸入飼料依存型の牛肉生産システムからの脱却を計り、国内の草資源を

九州大学 高原農業実験実習場の戦略

草食動物の物質循環機能と先端技術を高度活用した
日本独自の環境保全的で持続的な生産システムの構築：
日本型フードチェーン・システムの構築

草での飼養に適した
牛をつくる

新しい飼養技術：ウシの体質制御
代謝生理的インプリンティング

生物と環境



放牧管理

国内草資源のフル活用：
耕作放棄地の活用

Nature

国内の粗飼料と穀物飼料

日本型フード・チェーン

牛肉生産



安全性と品質管理

excrement
(fertilization)

Return or Recycle

還元とリサイクル

New technology

IT技術を活用した
高度放牧管理システム



活かした、安全で良質かつ低コストな牛肉生産システムにシフトする必要があると思われます。

日本の食料自給率は40%以下と世界の中でも極めて低く、有事の際には国の存続は困難となります。この混沌とした時代において有事だけでなく、異常気象等や伝染病の発生等で食料が輸入でなくなることは容易に想像されます。何よりもまず、自分たちの食料は自分たちでつくれる基盤は残しておかなければなりません。

日本の農業全般において農業従事者の高齢化、後継者不足、あるいは外国からの安価な農作物の流入により、経営を放棄された多くの農地が荒廃しています。このいわゆる“耕作放棄地”は年々増加しており、その使用はなおざりにされたまま数十年が過ぎようとしているものもあります。日本の食料自給率の低下を防ぎ、消費者に安全な食料を供給するためには、このような耕作放棄地を

今後も食料生産が可能な用地とする環境保全・物質循環型の新しい農業システムの開発・構築が必要不可欠であると考えます。

2. 草でおいしい牛肉を生産する戦略とは？

ウシにおける幼少期の体質制御：草による牛肉生産に適したウシの体質づくり

私たちは、上記のような問題点を踏まえて、ウシの草食動物（反芻動物）としての物質循環機能を最大限に発揮させ、また、その飼養には国内の未利用草資源を最大限に活用して安全・安心で、しかも良質な牛肉を生産するシステムの構築を目指しています。

ウシは本来、“ヒトが消化できない粗い繊維質（通常の単胃動物では消化できない繊維性の高い植物多糖資源）を分解し”、“草資源からタンパク質源

としての食肉やミルクを生産し”、それをヒトに供給するという重要な物質循環機能を担った草食動物（反芻動物）です。私たちはこのような国内の草資源を活用する牛肉生産に適応したウシの“体質形成プログラム構築”のために“代謝生理的インプリンティング（刷り込み）効果”という新しい概念を導入し（草からの栄養吸収能力を高める体質づくり）、これまで不可能とされてきた草資源を活用した安全で良質な牛肉の生産を目指しています。現在の“プロイラー”型の牛肉生産ではなく、“地鶏”型の牛肉生産を目指しています。具体的には、荒廃した農地や草原をフル活用し、放牧飼養により赤身肉がおいしく、同時に適度な脂肪が交雑した牛肉の生産を目指しています。近年、ヒトの疾病を予防するようなベータカロテン等のビタミンやその他の機能性物質も“脂溶性”のものが多く報告されています。幼少期の体質制御により、牛体に脂肪組織がより多く蓄積されれば、その脂肪の中への、上に述べた脂溶性ビタミンや機能性物質の蓄積ポテンシャルも高くなり、生産される牛肉のヒトへの疾病予防に対する効果がより高くなることが予想されます。私たちは九州大学から、国内の草資源をフル活用して、おいしい赤身肉と、

その中に多くのビタミンや機能性物質を含んだ脂肪が適度に交雑された安全・安心な新しいタイプのブランドビーフの開発を目指しています。

3. 耕作放棄地のウシ放牧利用にフードチェーンを考える。

現在、日本には放棄された多くの農地、草地ならびに草原がありますが、それらの土地は過去様々な食料を生産していた貴重な農地であり、そのような土地を農地として保全しておくことは、食料自給率が40%と低い日本にとって、有事の備えとしても重要です。私たちは、耕作放棄地の長期間にわたる放牧活用の実験調査を行い、耕作放棄地を十分に活用できることを明らかにしました。また、先端IT技術を活用した放牧管理技術の開発も行っています。このように体質制御により草での飼養に適応したウシを育て、耕作放棄地や、日本の草原の草資源を活用した安全で持続的な牛肉生産システムの開発を目指しています。

近い将来、日本の草資源で生産された真に美味しい赤身主体の和牛肉を皆様に提供できるよう、日々研究に励んでいます。

中・上級者向け【無料】ドイツ語自習教材

Direkt aus Europa auf deutsch

<http://aufd.web.infoseek.co.jp/>

監修：元東京外国語大学客員教授 Heinz Steinberg

ドイツ・オーストリア・スイスのドイツ語ラジオニュースの
注釈付きテキストと音声ファイルを無料でダウンロード。
日本ではまだ知られていないヨーロッパの最新時事も紹介。
毎号聞き取り作文テスト付。独検1・2級対策に最適。
学習に、海外生活に、ビジネスに幅広くご活用下さい。

楽しかった「ドイツ風クリスマス」ー シンジラレナーイ！ ー

斎 藤 裕 三

「シンジラレナーイ！」昨年日本一に輝いたプロ野球チーム、「北海道日本ハム・ファイターズ」のトレイ・ヒルマン監督の優勝第一声。

昨年12月9日、KKRホテル博多で開催された西日本日独協会のクリスマスパーティーでも、「信じられない」ことが起きた。参加者がなんと170名を超えた。これまで多くて120名程度。

池田紘一会長も、「ご挨拶」のなかでいくつかの要因を挙げた（写真①）。その一つとして、2005年から06年にかけての、「ドイツ年」の影響がある。多くの人が「歴史と芸術に彩られ、新しい文化や技術を育むドイツの素顔に触れ」（福岡ドイツ年の広告）、新しいドイツに好感を抱いた。

昨年も伝統ある「クリスマスパーティー」を準備するため、「実行委員」を募った。ところが、例年キー・パースンの存在だった数名の方が、個人的事情で参加されないとのこと。シャーデ！

年年歳歳花相似たり。されど人の世は諸行無常。でも、捨てる神があれば捨てない神も！ 多くのベテランメンバーが参加してくださるとのこと。ダス・イスト・ゾー・シェーン！

池田新会長、根本新事務局長のもと、前記のような追い風を受け、西日本日独協会にとって今が変革の好機。古い血に新しい血を入れる絶好のチャンス。新しい皮囊には、新しい葡萄酒が相応しい。そうして協会も活性化していく。

特に今回は、協会が運営する「ドイツ語教室」に通った新しい会員の方々（教室だけではないが）が、「クリスマスパーティー実行委員」として大活躍された。

当日、バザー担当の武宮加代子さんと小野寺睦



①池田会長のご挨拶



②ホルストさんによるツリー飾り制作指導

③制作した飾りをツリーに飾る



④耳慣れたクラシック音楽の演奏

美さん（お2人の写真⑥）、河野由美子さん、竹井ミツルさん、印刷関係の強力な助っ人二本木一哉さん、事務局担当の村上康子さん、忙しい中6回も委員会に出席していただき、本当にありがとうございます。

ここではご尊名を書かないが、パーティーの成功のため、これまでのノウハウと実践力をフルに活用していただいたベテラン委員の皆様にも、もちろん深く感謝申し上げます。

また、バザーやクジ引きやおみやげ用として、貴重な品々を、惜しみなく提供していただいた方々や企業の皆様に、心から御礼申し上げます。

スウェン・ホルストさんは、福岡県立女子大学の先生だが、当日「こどものためのツリー飾り教室」を、別室で開いていただいた（写真②と③）。こどもたちと保護者の皆様にとっても好評で、保護者の方々から「ホルストさんを大学の先生にしておくのはモッタイナイ」という声があがった。

ホルスト先生は自家製のクッキーを寄付され、また、「ドイツのクリスマス」をプロジェクターで紹介していただいた。ダンケ・シェーン！

サンタも、従者ループレヒトを引き連れ、例年



⑤今年もやってきたサンタさん。プレゼントは？



⑥一際賑やかなバザーコーナー、係は武宮さん（左）と小野寺さん（右）

どおりやってきた（写真⑤）。これまで目的の会場を探すのが一仕事で、いつも到着が遅れ待っている人々をやきもきさせた。近頃は携帯とGPSなどのおかげで、容易に会場を見つけることができるという。ただし、グリューワインの一杯は、時節柄お国に帰り着いてからになったとか。

例年も、みんなで「きよし、このよる」などドイツのクリスマスの賛美歌を歌ってきたが、今回はそれに加えて、会員の中のプロやプロ級の音楽家の皆様に、易しく親しめるクラシックの歌を歌っていただいた。

最初にステージで脚光（装置はなかった）を浴びたは岡嶋泰一郎さん（バリトン）。曲目は、

① 故郷（岡野貞一）

② アヴェ・マリア（グノー）、

③ ホワイト・クリスマス（バーリン）

伴奏は、岡嶋美佐子さん（ピアノ）と樺島卓哉さん（ユーフォニアム）。

2人目は山崎勝幸さん（テノール）。曲目は、

①アヴェ・マリア（アルカデルト）

②アヴェ・マリア（カッチーニ）

伴奏は、多田裕子さん（ピアノ）。

最後にステージを華やかに飾ったのは、廣吉明子さん（ソプラノ）。曲目は、

①アヴェ・ヴェルム・コルプス（モーツァルト）

②アヴェ・マリア（シューベルト）

伴奏は、同じく多田裕子さん（ピアノ）。

一度は聴いたことのある曲ばかりで、雰囲気にとびつたり。そして、恒例になっている《モミの木》と《きよし、このよる》を出席者全員で合唱し、賑やかで楽しい、そして清らかさに充ちたクリスマスの雰囲気を満喫した。

最後は、いつもユーモアいっぱいの根本道也事務局長司会による「クジ引き」。幸い当たった人も、不幸にして当たらなかった人も、同じく心もお腹も満ち足りて《Ich habe genug.》（BWV [バッハ作品番号]82）家路についたのであった。アイン・グリュックリッヒェス・ノイエス・ヤール！

（写真・斎藤裕三撮影）

ドイツ人と祭り

福岡女子大学 Sven Holst

ドイツ人は祭りが大好きだ、とライン地方に住んだことのある人や、世界最大のビール祭りの話を聞いたことのある人は思う。他の地方を経験した人はそう思わないかもしれない。ドイツは祭りに関しても地域性が強い。主に私が住んだ西南地方（シュヴァルツヴァルト西麓に位置する Oberkirch）とライン地方（Bonn）の行事について述べる。

ドイツの祭りの第一のルーツ：農業年間行事と 田舎の共同生活

村落共同体の団結により共同作業（土木作業、収穫、建築、共同窯によるパン焼きなど）が行われた。共同体の円滑な運営のために、様々な儀式（災厄祓い、豊作の予祝、通過儀礼）がともに開催された。

ドイツの祭りの第二のルーツ：キリスト教

7 世紀にキリスト教が布教された。中世には教会が教養・文化の保持者であった。1517 年の宗教改革とその後の反宗教改革運動により祭りは否定され、再改宗のために利用された。啓蒙主義と脱封建制度、産業革命により教会が弱体化した。社会福祉活動により教会は再強化を図った。戦後になって新旧両派は接近し始め、世俗化により教会との繋がりは弱体化した。

ドイツの祭りの第三のルーツ：国家や地方政権の 祭典

近代化とともに多宗派国家が成立し、それまでの宗教的統一感と職業的連帯感がなくなったために、君主と国民および国民同士の統一を促進する象徴的な行事が必要となった。また、祭

りにおける情報交換と消費の活発化により経済の発展振興ができた。



ドイツの年中行事

（カッコの中の日付は月暦により決められ、年によって異なる；アンダーラインを付したのは公の祝日である）

- 1. 1. 新年
- 1. 6. 三賢者（三賢者が家々を回る）
- 2. 2. マリアのための光ミサ、冬の終わり
- (2. 7.) 薔薇（狂乱）の月曜日
- (2. 8.) 断食（前）の夜
- (2. 9.) 灰の水曜日
- (3. 20.) 椰子の日曜日（椰子の葉と驢馬に乗ったキリストの行列）
- (3. 24.) 聖週（罪を赦す、「緑（菜食）の木曜日」）
- (3. 25.) 聖金曜日（イエスの受難、鐘が鳴らない、魚食、イエスの受難を演ずる行列）
- (3. 26.) 聖土曜日（教会の永遠の光に灯をともす、イエスを裏切った使徒を追い出す）

(3.27.) 復活祭:春分後の最初の満月の日 (卵、
春到来の行事:火をつけた車輪)

(3.28.) 復活祭の月曜日

3.31. 魔女の夜

(4.3.) 白い日曜日 (聖体初拝領)

5.1. メーデー

(5.5.) 昇天:復活祭から 40 日目

(5.15.) 聖霊降臨祭:復活祭から 50 日目 (五
月祭、射撃大会)

(5.16.) 聖霊降臨祭の月曜日

(5.26.) 聖体の祝日 (町の中の四つの祭壇への
行列)

7.24. 聖ヨハネ、夏至 (火の行事、墓参)

8.5. マリア昇天

10.3. ドイツ統一の日

(10.16.) 教会の開基を記念する日 (市がたち移
動遊園地が来る)

10.31. 宗教改革の日

11.1. 万聖節

11.2. 万霊節

11.11. 聖マルティン (子供の提灯行列)

11.16. 懺悔と祈りの日

12.6. 聖ニコラウス (サンタ・クロース)
(子供の靴にプレゼントを入れる)

12.25.-26. 誕生祭

12.27. 聖ヨハネ、冬至

12.31. 年越しのパーティ、個々の市民の打ち
上げる花火

ドイツの典型的な祭り

カーニバル (第五の季節):これには二つのタイプが目立つ。西南地方の田舎風・伝統型カーニバルとライン地方の近代都市型カーニバルである。

射撃団の祭り:射撃団は自治自衛手段から国民武装へと発展した。プロテスタント教会は結束力が弱いため、射撃団が生活共同体の核になって祭りを開催し、射撃祭が地域の交流の場となった。

五月の行事:「五月の木」がある。東南地方では、五月の木は村の象徴であり、一年中ずっと村の中心に立っている。しかし、ライン地方では五月の間だけ立てられたり、また、恋人の家の前に置かれたりする。ライン地方には若者組による「五月の結婚」、「五月の女王と王のオークション」がある。

時代祭り:都市の歴史や伝説に基づいた祭りは一回の周期行事から定期化し、都市市民のアイデンティティの象徴、また、観光振興手段としての役割を果たしている。例:「ランツフートの結婚」

教会開基祭 (Kirmes / Kirchweih):秋、収穫の後に人々が市場と移動式遊園地で楽しむ。

祭りは衰退しつつある。古き良き時代の名残りと考える人もいる。しかし、祭りは社会の変化に合わせて変化しながら、人々のニーズに合う形で存続するものである。

スイスの銀行が世界中から信頼されるのはなぜか

UBS スイス銀行ディレクター 森 弘志

この福岡でスイスのお話をさせて頂くのは、私にとって特別の感懐がございます。と申しますのも、私が欧州で仕事をしたいと思った動機のひとつが、福岡の生んだジャーナリスト**笠 信太郎さん**の本を読んで深い印象を受けたという経験だからです。笠信太郎さんは福岡でお生まれになり、修猷館中学から東京商大を経て、朝日新聞の記者になられました。戦争中に朝日新聞のベルリン特派員でいらっしゃいましたが、戦火激しい中スイスに拠点を移し、対米終戦工作に力を尽くされました。笠信太郎さんは「ものの見方について」の中でドイツ人・フランス人・英国人と、欧州の典型的な3種類のものの考え方を比較され、そこである小話を紹介しておられます。(ドイツ人は残念ながらここには出て参りませんが) 英国人は歩きながら考える、フランス人は考えてから走り出す、スペイン人は走ってから考える、という話です。これをスイスにあてはめるとどうなるか。これを考えてみたいというのが本日のテーマです。

日本におけるスイスのイメージは、のどかな山の中の平和な中立国です。これは日本が戦後平和国家を目指す中で、出来上がってきたものです。一方、欧州におけるスイスのイメージですが、動乱の世紀・20世紀を通じ、スイスがヨーロッパでどんな位置づけにあったかを思うと、スイスの心理学者・思想家ユングが1913年、第一次大戦の直前に見た、「欧州大陸全体が洪水になる中、スイスの山々が高くせり上がり、洪水からスイス国民を守った」という予言的白昼夢が思いだされます。すなわち、20世紀を通しスイスは勿論無傷ではありませんでしたが、欧州の動乱から、あの手この

手で身を守ることができた国であるわけです。これはスイス人の誇りです。一方、周辺のヨーロッパ人に言わせると、自分の軒先だけきれいにしているというイメージ、そして他方では、お金の



避難場所というイメージです。欧州の人々はスイスを白い目で見える一方で、安全なお金の避難場所としてとらえているわけです。

統計を見てみますと、特に**個人資産の管理・運用**の分野で、スイスがその小さな国の規模に対して不釣り合いな強さを示しているのがわかります。いわば、銀行業はスイスにとり、世界に輸出できる**「主力産業」**であるということがいえるでしょう。これは一体なぜでしょうか。戦乱から安全であったという以外に、何か理由があるのでしょうか。

スイスの銀行というと、秘密のお金・裏の資金の隠し所というイメージがつきまといます。これは確かに、スイス独特の厳格な**顧客情報を守る制度**が背後にあるからですが、スイス銀行すなわち顧客情報保護ということになったのは、そんなに古いことではありません。二重・三重に**守りを固**

める抜け目の無いスイス人ならではのアイディアではありますが、これはスイスの銀行業の強さの一面を示すに過ぎません。

徹底した個人情報保護に加え、もう一つスイスの銀行の業務上の特徴として、特に個人向けの**資産運用・投資顧問を業務の中心**に据えているという点があげられます。ちなみに資産運用業務というのは、単にご預金をお預かりしたり、短期的に上がりそうな株をお売りしたりということではなく、お客様の資産全体を見て、**リスクを分散しつつ、長期的な利益を図るためのアドバイス**をするということです。

しかし、顧客情報保護にせよ、証券・銀行の一体化にせよ、同じ制度・法律を世界のどこかに作れば、スイスの銀行と同じことが可能なのかというと、決してそうではありません。日本の丁寧な**「ものづくり」が日本の文化**であり、他の国に技術だけ移転したからといって、なかなか同じことはできないのと同じように、**銀行業はスイスの文化**であると言えるでしょう。

欧州に大小多くの国がある中、山間の小国スイス・植民地を全く持たなかったスイスで銀行業が栄える理由は、やはりスイスの伝統・スイス気質そのものに求められるというのが私の実感です。そのまず一つ目は、**質素・儉約の気風**であります。これは山国の人の特徴です。スイスの大作家ケラーが、19世紀にスイスの職人の典型として「真に必要なこと以外にはお金を使わない」という人格を描いていますが、お金は自分でせつせと働いて貯めるものではあっても、人から借りるものではない、というのがスイス一般に伝統的な考え方であったようです。**貯蓄が美德**である日本あるいはドイツと、一脈共通する気質であるように思われます。

スイス人のもう一つの重要な才能、スイス人を天性の銀行家とする重要な要素があります。それは隠れた**国際ネットワーキングのセンス・根回しの才能**という点です。

上記のように山国で派手なことが嫌いなスイス人は、ひたすら働いて貯金する一方でありました。

実際スイスは18世紀の産業革命期の前後から、繊維産業・精密機械産業で、自国内では運用できないほどの富を蓄積しておりました。貯蓄する一方のスイス人相手に、スイスの銀行がなぜ商売を成り立たせられるのでしょうか。スイスの銀行は、産業革命期からお金の運用を主に外国で行って参りました。実はここがドイツないしは日本と事情の異なるところです。スイスは英国のような植民地がありませんでしたので、銀行は純粹に外国で商売を致しました。スイス独特の国際ネットワークがあつてはじめて、このことは可能になりました。

スイス人たちが独自の国際的ネットワークを形成するに至ったのは、17・18世紀にかけてです。このネットワーク形成はふたつのルートでできてきました。まずこの時期は絶対王政の時代で、欧州各国の王室が勢力拡大のため、むやみに戦争を行つた時期であります。古くから、資源も植民地も無いスイスは、唯一の資源・**兵隊を欧州各国に輸出**し、外貨を稼いでいたという歴史的事情があります。今日まだ残っているこの傭兵の名残は、バチカン・ローマ法王庁の衛兵であります。法王庁の衛兵は今日でも、スイスの若者が務めるということになっております。

食うや食わずであった**山村の農家の次男・三男たちは**、フランス・イタリアといった外国の軍隊に編入され、時には同じスイス人同士、極端な場合兄弟同士で敵味方になって戦うこともあつた訳です。しかし、兵役を終えた後はその国に留まり、そこで職人あるいは商人として**スイス・コネクション**を築くに至つたわけであります。このように、当時のヨーロッパの港町や商業都市には、スイス人コミュニティがあり、スイスの貿易商がその都市を訪れた際には、現地のスイス人サークルから重要な情報を得ることができたと言われております。

第二に、欧州大陸の戦乱と宗教戦争・新教弾圧の中、新教徒の職人・商人・学者を中心として多くの優れた外国人が、スイスに住み着いたという

事情があります。その一例として、フランスの新教徒である**ユグノー**には、**時計技術者**を中心とする職人層が多かった訳ですが、もともとのスイス人の手先の器用さとも相まって、スイスの時計産業を築く結果となった、という話は有名です。19世紀に至っても多くの外国人実業家がスイスに定住し、現在のスイスの産業の基礎を築いております。例えばスイス企業の代名詞ネスルの創業者ハインリヒ・**ネストレ**も、そもそもはフランクフルトの薬屋さんの下種でありました。

これら外国人たちは、移住後も**故国におけるネットワークを活用**して商売をしており、各国の経済情報がスイスに集まったと言われております。このネットワーキング・根回しの才能の現在における良い例が、毎年2月に行われる「ダボス会議」・世界経済フォーラムであります。全くプライベート・ベースで組織されるこの会議には、主要国の首脳・経済界のリーダーがほぼ全て集まるといっても過言ではありません。

スイスでも銀行の初期の形態は、他の国と同じく個人銀行でありましたが、スイスの個人銀行が急速に力をつけてきたのは**18世紀・1700年代後半**であります。スイス人達の**消費せずに貯蓄された資金は**、個人銀行家たちによって外国に貸付けられておりました。貸付先は、**欧州各国の貿易商・工場主のみならず、戦争に明け暮れる欧州各国の王室**に至りました。各国の事情・王室の懐具合に通じていたスイスの銀行は、欧州の**貴族・王室の資産運用アドバイス・投資顧問**を務めるに至った訳であります。

一例をあげますと、18世紀後半に活躍したスイス人銀行家に、ジュネーブ出身の**ネッケル**という人物が居りました。このジャック・ネッケルは、一外国人銀行家でありながら、ルイ16世から3度までもフランス王室の大蔵大臣として迎えられて、大赤字財政改革の大鉈をふるうわけでありま

す。なぜ一外国人が、貴族や宗教勢力の反対もある中、大国フランスの大蔵大臣に招かれたのでしょうか。ネッケルは貿易金融の傍ら、実はフランス王室にも巨額の資金を貸付けておりました。そのため、フランス王室の財政事情には誰よりも通じていたという訳です。ネッケルはフランスの貴族層のみならず、フランスの宿敵イギリスや、フランスで活躍するオランダの商人達からフランスの財政・経済に関する重要な情報を得ていたと言われております。ネッケルのみならず、別のスイス銀行家は当時中部ヨーロッパに広大な領土を持っていた大国・**オーストリア・ハンガリー帝国の中央銀行総裁**として招かれております。傍目八目という言葉がございますが、外国人であるが故に、その国の事情に通じ、投資のリスクを冷静に判断することができる、というのがスイス人ビジネスマンの特徴であります。

現在、国際的に成功している銀行にも2種類あり、一つはお客様に短期間でどれだけの儲けをもたらすか、ということ売り物にしている金融機関でございまして。しかし、投機的にどれだけの儲けられるか、ということばかり追求していたのでは、長い目で見て、国際的銀行として信用を得ていくことは難しいのが事実です。スイスの銀行業の特徴は、長期的に見たリスクの分散ということに求められます。19世紀・20世紀を通じ、二つの世界大戦を含め、スイスは多くの戦乱を、中立を通し乗り切って参りました。素手で自然と戦ってきた山人の**強靱な精神力・勤勉と、独特のバランス感覚に基づく根回し**の2つで乗り切ってきたわけですが、これこそ今日のスイス銀行業の重要なバックボーンとなっているわけです。

さて、はじめにお話しました笠信太郎さんの言っておられた逸話に戻ってみますと、スイスは一体何になるのでしょうか。私は「**見回しながら考える**」という風に思っておりますが、いかがでしょうか。

事務局長の任務を引き継いで

事務局長 根本道也

昨年の「日本におけるドイツ年」行事は協会の総力をあげて取り組んだ甲斐があつて、ドイツと日独協会の存在を大いにアピールできたと思います。企画と実行の舵取り役をされた会長、副会長、事務局長さんたち大変ご苦勞様でした。

さて葉事務局長のあとを引き継ぎました根本です。歴代事務局長の中では最高齢です。これは本人には「誉れ高い」ことですが、周囲には「心もとない」ことでしょう。

ドイツ年の各催しは前事務局長を中心に理事の方々、その他大勢の会員のご尽力により大成功をおさめました。コンサート、環境シンポジウム、文化講演など多数の特別企画が、市民を巻き込んで催されました。どの催しにも日頃の例会では見かけない若い世代の方々が大勢参加してくださいました。学生さんばかりではありません。会社員らしい方、見るからに主婦とおぼしき方などなど。

ドイツのことに多少なりとも関心を持っている方々が、こんなにたくさんいらつしやつたのかと、はっと息を呑む思いでした。こんな方々のエネルギーを肌で感じているうちに、なにか大事なものを置き忘れてきたように思えてきました。

ドイツへの関心やドイツ語が下火になってきたとは言え、私たちまで萎縮してしまつてはいけません。むしろ大勢の人たちに「ドイツ」への門を大きく開き、近づきやすい道を用意してあげるのが、私たちの役目だと思ひ直しました。

そこでドイツ年の成果を今後活かすための試みに取り組むことにしました。

1. 楽しく有意義な企画をホームページで広く伝えることにしました。非会員の「体験参加」も皆

で歓迎しましょう。

2. 若い世代の会社員や学生さんたちが参加しやすいように、月例会をできるだけ土曜日に行うようにしました。平日だと、遅くまで仕事や勉強をしている人たちは自然と足が遠のいてしまいますから。
3. 年会費の割引制度をつくりました。一つは「家族割引」です。夫婦・親子・兄弟姉妹など家族で会員になりたいが、年報や案内状は一人分でよいという場合、二人目から年会費を学生と同額（2千円）にします。二つ目は「青年部割引」です。若々しい企画が大いに期待されますので、40歳以下の方々の年会費を低額（4千円）に抑えて、活動のエネルギーを蓄えます。
4. 講演後の懇親パーティー会費も参加しやすい金額（3千円、学生半額）になるように工夫しています。（毎回グルメでは会員の健康によくありませんし。）

- * 事務所の件では皆様にご心配をおかけしていましたが、幸い城島印刷様の格別のご配慮で、広々した部屋を安くお貸しいただき、無事に移転することができました。城島印刷様のご好意に深謝申し上げます。
- * 協会の活動を一層楽しくするアイデアなどをどしどしお寄せください。
- * 月例会は、準備の都合上ご出席の連絡を1週間前までに頂けると幸いです。

記録・報告

平成18年度活動報告 (平成18年4月1日～平成19年3月31日)

《 会 議 》

◎ 理 事 会

1. 平成18年4月8日18時より
ヴァイセローゼ 出席者12名
・会計について
・事務局移転について
・役員人事について

2. 平成18年4月19日18時より
三鷹ホール 出席者11名
・役員人事について
・事務局の引越しについて
・その他

3. 平成18年5月27日15時より
赤坂事務局 出席者13名
・総会について

4. 平成19年2月10日15時より
ヴァイセローゼ 出席者13名
・ドイツ平和村の応援について
・事務所の移転について
・その他

5. 平成19年3月31日15時より
赤坂事務局 出席者10名
・事務所移転について
・月例会の計画について
・会計監査について

◎ 理事・評議員会

- 平成18年5月31日 17時30分より
三鷹ホール 出席者19名
・平成18年度総会の議事の承認

◎ 総 会

- 平成18年5月31日 18時30分より
三鷹ホール 出席者21名
・平成17年度活動報告
・平成17年度収支決算報告
・平成18年度活動計画
・平成18年度収支予算
・その他

《 活 動 》

◎ 例 会 等

1. 4月例会
4月19日 18時30分より
三鷹ホール 出席者30名
「鵜外のドイツ体験『獨逸日記』を読む」
清水 孝純（九州大学名誉教授）

2. 6月例会
6月24日 18時より
KKRホテル博多 出席者49名
「ドイツ研修旅行の報告」
稲田 光朗、尾下 優子、田中 香織
(九州大学学生)

3. 7月「7月恒例のビアフェスト」

7月29日 19時より

雁ノ巣 原田副会長別荘

出席者 83 名

4. 9月例会

9月20日 18時30分より

三鷹ホール 出席者 28 名

「西ドイツに派遣された日本人炭鉱マンの
体験談」

村谷 泰一（元三井鉱山職員）

5. 10月例会

10月6日 18時30分より

東京第一ホテル 出席者 40 名

「EUとは何か、それは何を意図し、
何ができるか？」

Helmut Gross（元九州大学外国人
講師）（通訳：田野 武夫）

6. 11月例会

11月14日 18時30分より

KKRホテル博多 出席者 38 名

「安全でおいしい牛肉の生産に挑戦」

後藤 貴文（九州大学助教授）

7. 12月 クリスマスパーティ

12月9日 17時30分より

KKRホテル博多 出席者 169 名

「音楽とグリュウワインのドイツ風ク
リスマス」

8. 2月例会

2月3日 18時30分より

KKRホテル博多 出席者 54 名

「ドイツ人と祭り」

Sven Holst（福岡女子大学助教授）

9. 3月例会

3月2日 18時30分より

東京第一ホテル 出席者 60 名

「スイスの銀行が世界中から

信頼されるのはなぜか」

森 弘志（スイス銀行ディレクター）

◎2006年度福岡パリ祭への会員の参加

7月10日 18時より 末永文化センター

出席者 5 名

◎「年報」30号発行 平成18年6月24日

◎ドイツ語講座（初級、中級、上級会話）

第1回：4月3日より12回

受講者 61 名

第2回：9月4日より12回

受講者 63 名

第3回：1月8日より10回

受講者 42 名

会 場：九州大学国際交流プラザ、九州学士会、
赤坂事務所

講 師：福元圭太、田野武夫、エーファ・オトマー、
ダニエル・カーペンティエール

《 後 援 事 業 》

・「フリーデンス福岡」のボランティア活動

《 会 員 》

◎ 会員数（平成19年3月現在）

個人会員 140名 法人会員 5社

◎ 新入会員

<個人>

（平成18年度入会者） 小野寺 睦 美 河 野 徹 郎 狩 野 素 朗 久 保 敬 司
重 竹 芳 江 田 野 武 夫 武 宮 加代子 泊 有 佐 泊 十九男
中 村 和 子 二本木 一 哉 本 多 きよみ 松 井 俊 規 真 鍋 賢 子
（平成19年4、5月入会者） 今 永 一 成 栗 原 秀 朗 能 木 敬 次 平 松 智 久
吉 田 美枝子

<法人> （平成19年4、5月入会） 城島印刷株式会社 長崎学院長崎外国語大学

平成19年度活動計画

（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

◎ 例会等

1. 4月 例会 4月21日（土） 東京第1ホテル
「あなたは大丈夫？ 内臓脂肪はついていませんか？」
～ 21世紀の病気、メタボリックシンドロームの謎を解く～
岡嶋泰一郎（国立小倉病院院長）
2. 5月 総会 5月26日（土） 三鷹ホール
3. 6月 例会 6月16日（土）
「ヨーロッパの言語政策」 ゲアハルト・シュテイクケル（元九大外国人講師、元ドイツ国立国語研究所所長）
4. 7月 「ビアフェスト」 7月28日（土） 雁の巣千鳥屋別荘
5. 9月 例会 9月8日（土）
（仮）「『青年の国』ドイツとトーマス・マン」 福元圭太（九州大学言語文化研究院准教授）
6. 10月 例会 10月13日（土）
（仮）「ドイツ国際平和村の支援体験」 久保敬司（九州大学歯学研究院准教授）
7. 11月 「会員によるドイツ音楽コンサート」 11月17日（土）
8. 12月 「クリスマス・パーティ」 12月8日（土）
9. 2月 例会 2月16日（土）
（仮）「ドイツの介護制度と実情」 重竹芳江（文学博士、福祉学修士）
10. 3月 例会 3月22日（土）
（仮）「日本酒とワインの醸造」 松井俊規（醸造学博士）

◎ ドイツ語講座開設

◎ 「年報」31号発行 平成19年6月

◎ 西日本日独協会ホームページの開設

会 計 報 告

平成18年度収支決算書

収 入 の 部				支 出 の 部			
項 目	決算額	予算額	対 比	項 目	決算額	予算額	対 比
前年度繰越金	1,201,629	1,201,629	0	事務所家賃	590,000	640,000	-50,000
個人会員会費 ¹⁾	910,000	800,000	110,000	事務所光熱費	13,345	100,000	-86,655
法人会員会費 ²⁾	120,000	150,000	-30,000	人件費	456,000	456,000	0
年報広告費	120,000	150,000	-30,000	年報発行費	210,000	250,000	-40,000
例会等参加費 ³⁾	1,808,500	1,760,000	48,500	例会等経費	1,642,932	1,760,000	-117,068
ドイツ語講座授業料	1,646,000	2,700,000	-1,054,000	会議費	5,170	10,000	-4,830
【17年度ドイツ語講座授業料】 ⁴⁾	309,000	300,000	9,000	事務経費	42,002	30,000	12,002
雑収入 ⁵⁾	278,429	0	278,429	通信・印刷費 ⁶⁾	314,328	250,000	64,328
				旅費・交通費	50,000	30,000	20,000
				ドイツ語講座経費	1,608,660	2,130,000	-521,340
				【17年度ドイツ語講座経費】 ⁷⁾	1,058,136	1,007,800	50,336
				新事務所敷金	150,000	150,000	0
				新事務所移転経費	84,644	150,000	-65,356
				雑費	30,530	97,829	-67,299
				次年度繰越金	137,811	0	137,811
合 計	6,393,558	7,061,629	-668,071	合 計	6,393,558	7,061,629	-668,071

1) 151名(他学生2名)

2) 4社6口

3) ビアフレスト・クリスマス会を含む

4) 前年度分

5) バザー・オークション・ドイツ年残金・寄付金等

6) ドイツ年後処理

7) 前年度分

日独親善促進活動基金会計報告

平成18年度収支決算書

収 入 の 部			支 出 の 部		
項 目	決算額	備 考	項 目	決算額	備 考
前年度繰越金	128,280		ビアフレストへの移算	9,000	
ビアフレスト寄附金	31,285		10月例会への移算	4,000	
			クリスマスパーティへの移算	5,000	
			次年度繰越金	141,565	
合 計	159,565		合 計	159,565	

監査報告

上記の通り相違ありません。

平成19年 5 月 7 日

監事 田 中 武 団

平成 19 年 度 収 支 予 算

収 入 の 部				支 出 の 部			
項 目	予 算 額	前 年 度 予 算 額	対 比	項 目	予 算 額	前 年 度 予 算 額	対 比
前 年 度 繰 越 金	137,811	1,201,629	-1,063,818	事 務 所 家 賃	300,000	640,000	-340,000
個 人 会 員 会 費 ¹⁾	800,000	800,000	0	事 務 所 光 熱 費	70,000	100,000	-30,000
法 人 会 員 会 費 ²⁾	160,000	150,000	10,000	人 件 費	456,000	456,000	0
年 報 広 告 費	160,000	150,000	10,000	年 報 発 行 費	230,000	250,000	-20,000
例 会 等 参 加 費	1,800,000	1,760,000	40,000	例 会 等 経 費	1,800,000	1,760,000	40,000
ドイツ語講座授業料	1,600,000	2,700,000	-1,100,000	会 議 費	10,000	10,000	0
【18年度ドイツ語講座授業料】 ³⁾	0	300,000	-300,000	事 務 経 費	30,000	30,000	0
雑 収 入 ⁴⁾	232,189	0	232,189	通 信 ・ 印 刷 費	300,000	250,000	50,000
				旅 費 ・ 交 通 費	20,000	30,000	-10,000
				ドイツ語講座経費	1,500,000	2,130,000	-630,000
				【18年度ドイツ語講座経費】 ⁵⁾	0	1,007,800	-1,007,800
				新 事 務 所 敷 金	0	150,000	-150,000
				新事務所移転経費	100,000	150,000	-50,000
				予 備 費	74,000	97,829	-23,829
合 計	4,890,000	7,061,629	-2,171,629	合 計	4,890,000	7,061,629	-2,171,629

1) 135名

2) 6社8口

3) 前年度分

4) パザー・返納敷金 他

5) 前年度分

西日本日独協会会則

平成19年5月26日改正

第1章 総 則

第1条 名称 本会は西日本日独協会と称する。

第2条 事務局 本会の事務局は
福岡市中央区赤坂2-3-1 瑞穂ビル2Fに
おく。

第2章 目的および事業

第3条 目的 本会は日独両国間の学術・経済お
よび文化面における交流を助長し、併せ
て両国民の親善を図ることを目的とする。

第4条 事業 本会は第3条の目的を達成するた
めに次の事業を行う。

- 1) 例 会
- 2) 特別例会
- 3) ドイツ語講座
- 4) 年報の発行
- 5) ドイツからの留学生などとの交流
および支援
- 6) 本会の目的に合致する催しなどの
主催および後援

第3章 会 員

第5条 会員の種類 本会の会員は次の通りとする。

- 1) 個人会員 本会の目的に賛同し、
第6条に定める規定により入会を
承認された個人。
- 2) 法人会員 理事会の議を経て会長
が承認した法人。法人会員は代表
者2名を指名することが出来る。
- 3) 学生会員 学生又はこれに準ずる
身分の者で、所定の手続を経て入
会を承認されたもの。
- 4) 顧問 本会に対し特別の功労があ
る者で、会長の推薦により評議員会
が承認したもの。
- 5) 名誉会長 会長として本会発展の
ために多大の寄与又は特別の功労
があった者で、評議員会で承認さ

れたもの。

6) 名誉会員 本会発展のために多大
の寄与又は特別の功労があった者
で、総会で承認されたもの。

7) 在外会員 ドイツなど外国に居住
する者で、本会の会員であることを
希望し、評議員会で承認された
もの。

第6条 入会 個人会員・法人会員・学生会員に
ついては、会員2名の推薦とともに所定
の申込書を提出する。入会は理事会の議
を経て会長が承認する。

第7条 退 会

- 1 退会を希望する者は退会届を本会事
務局に提出する。
- 2 3年以上会費を未納した場合は退会
と見なされる。

第4章 役 員

第8条 役員 本会に次の役員を置く。

- 1) 会長 1名
- 2) 副会長 3名
- 3) 理事 事務局長・年報編集委員長
各1名を含む常任理事若干名・理事
10-20名
- 4) 監事 3名
- 5) 評議員 20-30名

第9条 事務局員 本会事務局に事務局員を置く。
事務局員は常任理事会により任命される。

第10条 役員の選出

- 1 会長は理事会において推薦し、評議
員会・総会の承認を得る。
- 2 副会長は会長が理事の中から推薦
し、理事会の議を経て評議員会およ
び総会の承認を得る。
- 3 常任理事・理事・監事は評議員の中
から理事会が推薦し、評議員会・総

会の承認を得て会長が委嘱する。

- 4 事務局長・年報編集委員長は理事会構成員より会長が指名する。
- 5 評議員は会員歴2年以上の個人会員より理事会が推薦し、評議員会の承認を得て会長が委嘱する。

第11条 役員の職務

- 1 会長は本会を代表し、会務を総括する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はその職務を代行する。
- 3 事務局長は本会の事務一切を総括する。
- 4 年報編集委員長は年報の編集に関する全ての会務を統括する。
- 5 常任理事および理事は理事会を組織して会務を執行する。常任理事は会長の求めに応じて会務の一部を処理し、理事会・評議員会・総会で処理すべき事項につき資料の収集・準備などを行う。
- 6 監事は本会の財産および業務の執行を監査する。
- 7 評議員は評議員会を組織し、本会の運営に関する重要事項を審議する。

第12条 役員の任期 役員の任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

第5章 会 議

第13条 本会の会議は総会・評議員会・理事会とする。

第14条 総 会

- 1 総会は第5条に規定する会員をもって組織する。
- 2 通常総会 通常総会は年1回会長が招集する。通常総会では以下の事項を審議承認する。
 - 1) 予算および決算
 - 2) 事業報告および事業計画
 - 3) 会長・副会長の承認
 - 4) 常任理事・理事・監事の承認
 - 5) 会則の変更

6) その他会長が認めた重要事項の審議

- 3 臨時総会 臨時総会は理事会からの請求があった場合、会長はこれを招集しなければならない。
- 4 総会の議事は出席者の過半数の賛成をもって決議する。

第15条 理事会

- 1 理事会は必要に応じて会長が招集し、議長は会長とする。
- 2 理事会は以下の事項を審議しなければならない。
 - 1) 会長の推薦
 - 2) 副会長の承認
 - 3) 理事・常任理事・監事・事務局長・年報編集委員長・評議員の推薦
 - 4) 事業報告・事業計画・予算・決算に関する事項
 - 5) 会則の変更
 - 6) その他特に必要と考えられる事項

第16条 評議員会

- 1 評議員会は会長・副会長・理事・監事・評議員で構成する。
- 2 評議員会は会長が必要と認めた場合、これを招集する。
- 3 理事および評議員の1/3以上、個人会員の1/2以上の請求があった場合、会長は評議員会を招集しなければならない。
- 4 評議員会では以下の事項を審議する。
 - 1) 総会に付議すべき事項
 - 2) 会長・副会長・常任理事・理事・監事・評議員の承認
 - 3) 事業計画
 - 4) その他の重要事項
- 5 評議員会の議事は出席者の過半数の賛成をもって決定する。

第6章 会費および会計

第17条 会費 会員は個人会員・学生会員・法人会員の区別により、会費細則に定める会

費を納入しなければならない。

第18条 経費 本会の経費は会費・寄付およびその他の収入をもってこれに当てる。

第19条 会計年度 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第7章 会則の変更

第20条 会則の変更 本会則の変更は理事会で審議し、評議員会の決議を経て総会の承認を得ることを要する。

本会則は平成18年5月31日より発効するものとする。

年会費細則

個人会員の年会費は6,000円とする。ただし、以下の割引制度を設ける。

1. 家族割引：年報および案内状が一人分でない場合、二人目の家族からは2,000円とする。

2. 青年割引：40歳以下の会員の会費は4,000円とする。

学生会員の年会費は2,000円とする。

法人会員の年会費は20,000円以上とし、当該年度に全額納入するものとする。

この細則の変更は理事会で審議し、評議員会の決議を経て総会の承認を要するものとする。

平成19年度 役員

顧問 平山 良明
名誉会長 木村 政資

会長 池田 紘一
副会長 原田 光博
事務局 根本 道也
年報編集委員長 高田 淑

常任理事 有村 隆広 石村 善治 岩下 宏 岡嶋泰一郎 緒方 敏郎
斎藤 裕三(企画担当) 末永 直行 高田 淑 竹野 純一
根本 道也 藤本 瑞枝 山崎 勝幸 葉 照子
理事 小黒 康正(国際交流担当) 加島 清士 萱野 通子 北芝 幹怡(広報担当)
行徳 収司 蘇木 嘉啓 高崎 隆一(経理担当) 福元圭太(ドイツ語講座担当)
堀 正人 巻 鷹子

監事 田中 武 長谷川常雄
評議員 麻生 誠 有吉 泰徳 小早川明徳 垣本 知子 上加世田和文
河田 溥 小林 正毅 佐田 正之 新保 弼彬 立花 健吾
立花 雅子 永野 秀子 中村 昭 林田シノブ 原田ウルズラ
福井 仁士
事務局員 村上 康子

関 係 機 関

ドイツ連邦共和国大使館	106-0047	東京都港区南麻布4-5-10	03-3473-0151
大阪神戸ドイツ連邦共和国総領事館	531-6035	大阪市北区大淀中1-1-88-3501 梅田スカイビルタワーイースト35F	06-6440-5070
在福岡ドイツ連邦共和国名誉領事事務所	812-8707	福岡市博多区千代1-17-1 西部ガス㈱内	092-633-2239
財団法人日独協会	102-0083	東京都千代田区麹町5-1 NK真和ビル9階	03-3265-3411
神戸日独協会	650-0031	神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館17階	078-230-8150
名古屋日独協会	470-1192	愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98 藤田保健衛生大学医学部臨床化学教室内	056-93-2456
奈良日独協会	630-8134	奈良市大安寺町大安寺内	0742-61-6312
北九州日独協会	803-0844	北九州市小倉北区真鶴2-6-1 九州歯科大学ドイツ語教室内 平川要	093-582-1131 (内) 337
大分日独協会	870-0025	大分市顕徳町2-1-5 NPO法人国際交流カルチャークラブ内	097-540-6363 Fax 097-540-6365
熊本日独協会	862-2106	熊本市東野3-14-1 窪田隆穂気付	096-369-1561
鹿児島日独協会	890-0065	鹿児島市郡元1-21-30 鹿児島大学法学部独文研究室	0992-54-7141
長崎日独協会	852-8523	長崎市坂本町1丁目12-4 長崎大学医学部病理学第二教室 松田源治教授	095-849-7055
徳島日独協会	770-8502	徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 ドイツ語ドイツ文学研究室内	088-656-7142 (内) 3622
愛媛日独協会	790-3577	松山市文京町3 愛媛大学法学部安藤研究室内	089-927-9354 (内) 3189
高知日独協会	780-8072	高知市曙町2-5-1 高知大学人文学科	0888-44-0111 (内) 552
岡山日独協会	703-8516	岡山市西川原1-6-1 就実大学哲学研究室内	086-272-3185
広島日独協会	734-8551	広島市南区霞1-2-3 広島大学医学部第一病理教室内	082-257-5145
岐阜日独協会	501-6073	岐阜県羽島郡笠松町下新町84	058-387-4596 Fax //
北海道日独協会	064-0801	札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ2階 サポートセンター内ケースNo.10	011-738-5755
岩手日独協会	020-0122	岩手県盛岡市みたち3-7-37 (株)双葉設備アンドサービス内	019-641-7440 Fax 019-641-7312
仙台日独協会	983-8622	仙台市宮城野区榴岡4-1-1(株)ユアテック内	
(社)大阪日独協会	530-0012	大阪市北区芝田町2-2-1 新梅田ビル6階	06-371-0679
豊橋日独協会	441-8021	豊橋市白河町100 中部ガス(株) 秘書気付	0532-31-7141
とちぎ日独協会	321-3223	宇都宮市清原台4-11-5 若山俊介方	0286-67-6534
北陸日独協会	920-0935	金沢市石引1-16-17 アンゲルス内	
茨城日独文化協会	310-0836	水戸市元吉田町1249-11 ふくのかい(株) 梶山正美	029-233-0029

沖縄日独協会	906-0203	沖縄県宮古郡上野村字宮国749 上野村うえのドイツ文化村内	09807-6-3771
日本独文学会	113-0033	東京都文京区本郷5-30-21 郁文堂内	03-3813-5861
九州大学文学部独文研究室	812-0053	福岡市東区箱崎6-19-1	092-642-2407
日本ゲーテ協会	156-0045	東京都世田谷区桜上水3-25-40 日大文理学部独文研究室内	03-3302-8131
大阪ドイツ文化センター (Goethe-Institut Kansai)	531-6035	大阪市北区大淀中1-1-88-3502 梅田スカイビルタワーイースト35F	06-6440-5900 Fax 06-6440-5901
京都ドイツ文化センター (Goethe-Institut Kyoto)	606-8305	京都市左京区吉田河原町19-3	075-761-2188 Fax 075-752-9133
東京ドイツ文化センター (Goethe-Institut Tokyo)	107-0052	東京都港区赤坂7-5-56	03-3584-3201
ドイツ学術交流会東京事務所 (DAAD)	107-0052	東京都港区赤坂7-5-56 ドイツ文化会館内	03-3582-5962
ドイツ観光局日本事務所	107-0052	東京都港区赤坂7-5-56 ドイツ文化会館内	03-3586-5046
在日ドイツ商工会議所	102-0075	東京都千代田区三番町-2 三番町 KSビル5F	03-5276-9811
ドイツワイン基金駐日代表部	102-0075	東京都千代田区三番町-2 三番町 KSビル5F 在日ドイツ商工会議所内	03-3511-4033 Fax 03-5276-8733
ドイツ農産物振興会日本事務所	100-0014	東京都千代田区永田町2-14-3 赤坂東急ビル7階	03-3580-0169 Fax 03-3580-0458
日本カールデュイスベルク協会 バーデンヴュルテンベルグ州 独 日 協 会	107-0062	東京都港区南青山5-10-5 第二菅谷ビル2 F Nicolaus-Lenau-Straße 13, D-71364 Winnenden/Stuttgart	03-3797-3387 Fax 03-3797-3495 071-95-2294
ブレーメン州独日協会		Rembertiring 2, D-2800 Bremen 1	
ベルリン独日協会		Otto-Suhr-Allee 26-28 10585 Berlin	030-2629292
ハンブルグ独日協会		Gotenstr 21 20097 Hamburg	04122-45822
ハレ・ザールクライス独日協会		Thomasiusstr.33 D-06110 Halle	0345-2905551
ザールブルッケン独日協会		Talstraße 56A 66119 Saarbrücken	0681-57703
福岡ユネスコ協会	810-0022	福岡市中央区薬院2-4-5 薬院大稲マンション702号	092-715-8768
福岡国際関係団体連絡会	810-0001	福岡市中央区天神1-10-1 北別館2F	733-5630
福岡国際学交流協会	810-0001	福岡市中央区天神1-10-1 北別館2F	733-5630
福岡観光コンベンションビューロー	810-0001	福岡市中央区天神1-10-1 北別館5F	733-5050
レインボープラザ	810-0001	福岡市中央区天神1-7-11 (イムズ8F)	733-2220
(財)福岡県国際交流センター	810-0001	福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡8F	725-9203~4 Fax 725-9205
福岡日仏協会	814-0133	福岡市城南区七隈1-11-50 末永文化センター内	821-5088
福岡EU協会	810-0001	福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡8F	725-9204 Fax 725-9205

編 集 後 記

「年報」31号を、再び移転した白金の新事務所からお送りします。一年余のうちに二度の移転という特別な事情・余分な仕事にもかかわらず、18年度のわが協会の活動は極めて充実したものでありました。編集をしながら、18年度の例会の講演が2月のホルスト先生以外はすべて非会員によって行われ、それだけに内容も多岐にわたり、興味深く新鮮であったことに改めて気付かされました。(もっとも、遠来のグロース先生は在外会員であります。)このことは協会の1年間の活動として極めて画期的であると言って過言ではありません。執行部の皆さまの常日頃からのご配慮、ご努力の賜物であります。そのことと関係があるかどうか、非会員の講師から送って頂いたレジュメが、これまでのレジュメに比して長い場合もありましたが、できるだけ原稿を尊重するよう努力しました。特にグロース先生はご帰国後、その間の情勢の変化をも書き加えた長大な論文を改めて送って来られました。このご労作に敬意を表し、また、昔とった杵柄を振るう機会を待って腕を擦っておられる会員のためにもと、会長ともご相談のうえ、日本語の要約の後にドイツ語の論文の全文も続けて掲載いたしました。

本号には3つの寄稿がありました。ホルストさんの原稿は本来は30号のための寄稿でありましたが、昨年の事務所移転の混乱に紛れてしまい、前号には間に合わず、一年もお待たせしてしまったことを申し訳なくお詫びいたします。また、昨年在外会員になられたアーデルハイト井口さんから「テュービンゲンからの報告」が寄せられました。寄稿のご常連、斎藤さんからもエッセイが寄せられています。

事務局員になられて初めて「年報」発行にたずさわられた村上さんのご苦勞をお察しし、同情しつつ感謝しています。また、毎号のことながら一方ならぬご面倒をお掛けした、城島印刷の二本木さんにも厚くお礼を申し上げます。

編集委員長 高 田 淑

西日本日独協会年報 第31号(2007)

発 行 平成19年6月22日
発行者 西日本日独協会会長 池 田 紘 一
編 集 西日本日独協会理事会
発行所 西日本日独協会

〒810-0012 福岡市中央区白金2-9-6
TEL/FAX (092) 524-0059

JAPANISCH-DEUTSCHE GESELLSCHAFT WESTJAPAN

Präsident : Dr. Koichi Ikeda

Sekretariat : 2-9-6 Shirogane Chuo-ku,
Fukuoka 810-0012, JAPAN

URL : <http://web.mac.com/hawkeye1027/iweb/J.D.G.Westjapan/>

郵便振替口座 01720-3-23959

福岡銀行屋形原支店

普通預金口座 1194549

西日本日独協会

(代表者: 池田紘一)

印 刷 城島印刷株式会社

〒810-0012 福岡市中央区白金2丁目9-6

TEL (092) 531-7102 (代) / FAX 524-4411

サクッとやさしい口あたり チロルのロマンが香ります。

チロルの溪谷に古くから伝わる

ロールクッキーに、千鳥饅頭総本舗

独自のアレンジを加えたチロリアン。

コーヒーマニラ・ストロベリー

三つの味に、ゴマ味、玉露味が

加わっておいしさのバラエティーが

ぐーんと広がりました。



創業寛永七年
(株) 千鳥饅頭総本舗

〒812-0036 福岡市博多区上呉服町10-1 博多三井ビル1F

TEL 092-283-8101 FAX 0120-192-193

インターネットホームページ <http://www.chidorishop.com>

暮らしを支える 地球にやさしい 青い炎。



私たち西部ガスは、地球にやさしい
クリーンエネルギーの天然ガスをお届けしています。



人、街、地球を快適に。

西部ガス

<http://www.saibugas.co.jp>

